

# 水産試験場トイレ洋式化改修工事

図面リスト		
図面番号	図面名称	縮尺
M- 0 / 5	表紙、図面リスト	--
1 / 5	機械設備工事特記仕様書 (1)	--
2 / 5	機械設備工事特記仕様書 (2)	--
3 / 5	配置図、附近見取図	1 : 400
4 / 5	衛生設備 器具表、1階平面詳細図 (改修後・撤去)	1 : 50
5 / 5	衛生設備 器具表、1階天伏図、2階平面詳細図 (改修後・撤去)	1 : 50
E- 1 / 4	電気設備工事特記仕様書 (1)	--
2 / 4	電気設備工事特記仕様書 (2)	--
3 / 4	幹線設備 分電盤結線図 (改修後)	--
4 / 4	電灯・コンセント設備 1・2階平面図 (改修後)	1 : 100



# 機械設備工事特記仕様書

## I. 工事概要

1 工事場所 境港市竹内団地

## 2 建物概要

番号	建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積 (㎡)	消防法令別表第一の区分	備考
1	本館	RC	2	1,395.90	( 15 ) 項	
2					( ) 項	
3					( ) 項	
4					( ) 項	
5					( ) 項	

## 3 工事種目 (印の付いたものが対象工事種目)

工事種目	番号	1	2	3	4	5	屋外	備考
● 空気調和設備								
● 冷暖房設備								
● 換気設備								
● 排煙設備								
● 自動制御設備								
○ 衛生器具設備								
○ 給水設備								
○ 排水設備								
● 給湯設備								
● ガス設備								
● 浄化槽設備								
● 消火設備								
● さく井設備								
● 電気設備工事								
● 建築工事								
●								

## 4 設備概要 (本工事における工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。)

項目	設備概要
● 空気調和設備	● 単一ダクト方式 ● 各階ユニット方式 ● ダクト併用ファンコイルユニット方式
● 冷暖房設備	● ファンコイルユニット方式 ● パッケージ方式
● 暖房設備	● 温水暖房 ● 蒸気暖房 ● 温風暖房 ( ● 局所式 ● 中央式 ) ● 床暖房
● 熱源	● 電気 ● 灯油 ● A重油 ● ガス ● バイオマス
● 主要熱源機器	● 鋼製ボイラー ● 鋳鉄製ボイラー ● 真空式温水発生機 ● 無圧式温水発生器 ● テリングユニット ● スクリュー冷凍機 ● 遠心冷凍機 ● 吸収式冷凍機 ● 直置き吸収式冷水機 ● 小形吸収式冷水機ユニット ● バイオマスボイラー ● ルームエアコン
● ヒートポンプパッケージエアコン ( マルチタイプ ● 有 ● 無 )	● 温風暖房機 ● F F暖房機 ● その他 ( )
換気設備	● 第一種 ● 第二種 ● 第三種
排煙設備	● 機械排煙 ( 適用法規 ● 建基法 ● 消防法 )
自動制御設備	● 電気式 ● 電子式 ● デジタル式
○ 給水設備	給水方式 ● 水道直結方式 ○ 高置水槽方式 ● ポンプ直送方式 ● 増圧給水方式 水源 ● 水道水 ● 井水
○ 排水設備	排水方式 ● 自然流下 ● ポンプ排水 ( ● 汚水 ● 雑排水 ● 雨水 ) 放流先 ● 汚水 ● 公共下水道 ● 浄化槽 ● 雑排水 ● 公共下水道 ● 浄化槽 ● 雨水 ● 公共下水道 ● 側溝 ● 河川 浄化槽 ● 処理方式 ● 小規模合併 ● 合併 ● 処理水放流先 ● 排水路 ● 側溝 ● 河川
● 給湯設備	● 局所式 ( ● ガス ● 油 ● 電気 ) ● 中央式 ( ● 油 ● ガス ● 電気 )
● 消火設備	● 屋内消火栓 ● 屋外消火栓 ● 連結送水管 ● 連結散水 ● スプリンクラー ● 泡消火 ● 粉末消火装置 ● 不活性ガス消火 ( ● 窒素 ● 窒素系 ) ● ハロゲン化物消火
● ガス設備	● 都市ガス ( MJ/Nm <sup>3</sup> ) ● 液化石油ガス

## II. 特記仕様

### 1 一般事項

- 現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の標準仕様書等のうち、
  - 印の付いたものによる。
  - 公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事情編) (令和4年版) (以下「標準仕様書」という。)
  - 公共建築改修工事標準仕様書 (機械設備工事情編) (令和4年版) (以下「改修標準仕様書」という。)
  - 公共建築設備工事標準図 (機械設備工事情編) (令和4年版) (以下「標準図」という。)

- 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「機械設備工事監理指針 (令和4年版)」 (以下「監理指針」という。) を適用する。
- 電気設備工事及び建築工事を本工事を含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書等及び監理指針を適用する。

### 2 特記事項

- 項目は番号に ○ 印の付いたものを適用する。
- 特記事項のうち選択する事項は ● 印の付いたものを適用する。
  - 印の付かない場合は、※ 印の付いたものを適用する。● 印と※ 印の付いた場合は両方を適用する。
- 一般共通事項のうち ( ) 項は、● 建築 ● 電気設備 工事特記仕様書による。

項目	特記事項															
1 官公署その他への手続	工事の施工に伴い必要な官公署その他への手続き、検査並びにその費用は、請負者の負担とする。															
2 電気保安技術者	工事現場における電気保安技術者は、鳥取県総務部営繕工事自家用電気工作物保安規程第5条に定める工事担当技術者の職務を補佐し、当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。なお、電気保安技術者の資格は標準仕様書第1編第1章第3節 1. 3. 2によるものとし、一般用電気工作物にかかる工事についても、自家用電気工作物の場合と同様の業務を行うものとする。															
3 工事安全計画書等	建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に工事安全計画書を作成し監督職員に提出する。															
4 発生材の分析及び処理	引渡しを要するもの ※ 無し ● 有り ( ) 引渡しを要するもの以外は、構外搬出適切処理とする。 特別管理産業廃棄物 ※ 無し ● 有り ● 本工事において調査を行う ( ● 塵石綿 (配管用保温材) ● PCB使用機器 ● ) アスベスト含有設備資機材 (ガスケット、パッキン、たわみ継手等の石綿含有廃棄物) は関係法令に従い適切に処理を行う。 PCB使用機器は関係法令等に従い適切に処理する。 撤去予定機器の微量PCB分析 ※ 無し ● 有り 再生資源化を図るもの ※ 無し ● 有り ( ● コンクリート塊 ● アスファルトコンクリート塊 ● )															
5 機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等以上の品質及び性能を有するものとする。ただし、これらと同等以上のものとする場合は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとの証明となる資料をあらかじめ監督職員に提出して承諾を受ける。なお、(一社)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」による場合は評価書の写しを監督職員に提出するものとする。															
6 機材の品質・性能証明	JIS等のマーク及び評価書のある機材を使用する場合は、標準仕様書第1編第1章第4節 1. 4. 2 (3)の品質及び性能を有することの性能を有することの証明となる資料の提出を省略できる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績等は除く。															
7 機材の承諾図	機械設備工事機材承諾図様式 (令和4年版) によるほか、監督職員の指示による。															
8 図形等の表示	機器類は、図示する形状、配管などの取出し位置及び製造品番により、特定製造者の製品を指示、限定しない。															
9 電気容量及び機器表示	機器類の能力、容量等は、原則として表示された値以上とする。															
10 技能士の適用	電動機出力、燃料消費量等は、原則として図面に記載されている値以下とする。 下記により適用する技能士は、適用する工事作業中、1名以上の者が自ら作業をすることともに他の技能者に対して施工品質の向上を図るための作業指導を行う。また、そのものが技能士であることが分かる名札 (下図参考) を常時着用する。 ○ 配管 ( ● 1級 ● 2級 ) ● 熱絶縁施工 ( ● 1級 ● 2級 ) ● 冷凍空調和機器施工 ( ● 1級 ● 2級 ) ● 建築板金 ( ● 1級 ● 2級 )															
11 施工図等	提出した施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は発注者に移譲するものとする。															
12 完成写真等	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事情編 平成30年版」によるほか、監督職員の指示による。下記のものを出す。 <table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>分類・規格</th><th>撮影箇所</th><th>部数</th><th>電子データの提出</th></tr></thead><tbody><tr><td>工事写真</td><td>カラーサービス判</td><td>各工種工程毎</td><td>※ 1部 ● 部</td><td>● 要 ● 不要</td></tr><tr><td>完成写真</td><td>カラーサービス判</td><td>監督職員の指示による</td><td>※ 2部 ● 部</td><td>● 要 ● 不要</td></tr></tbody></table>	区分	分類・規格	撮影箇所	部数	電子データの提出	工事写真	カラーサービス判	各工種工程毎	※ 1部 ● 部	● 要 ● 不要	完成写真	カラーサービス判	監督職員の指示による	※ 2部 ● 部	● 要 ● 不要
区分	分類・規格	撮影箇所	部数	電子データの提出												
工事写真	カラーサービス判	各工種工程毎	※ 1部 ● 部	● 要 ● 不要												
完成写真	カラーサービス判	監督職員の指示による	※ 2部 ● 部	● 要 ● 不要												

## 一般共通事項

13 完成図等

区分	名称	部数
※ 完成図原図	完成図 ● 原紙 ● CADデータ ● PDFデータ 施工図 ● 原紙 ● CADデータ ● PDFデータ	1部
※ 完成図 2つ折製本	● 完成図 ● 完成図 (縮小版) ● 施工図	※ 2部 ● 部
※ 完成図書 ● A4版市販ファイル ● A4版黒表紙製本	● 完成図 (縮小版) ● 主要機器図 ● 試験成績書	※ 2部 ● 部
※ 保守用説明書 (A4版ファイル)	※ 保守に関する指導案内書 ※ 機器取扱説明書 ※ 主要機器一覧表	※ 2部 ● 部
※ 保証書		1部
※ 官公署の届出書類		1部

14 他工事との取合

他工事との取合い		建築	電気設備	機械設備
● コンクリート壁、床、梁貫通部	スリーブ・箱入補強	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 鉄骨造の開口及び補強		● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 照明器具・幹線等の吊りボルト用インサート (くぎ処理共)		● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地		● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 埋込分盤・端子盤・プルボックスの仮枠及び埋込部分の補強	仮枠補強	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● OAフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強		● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 埋込形機器取付用の天井・壁の切込加工及び下地の補強	切り込み補強	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 自動開閉装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローザ、フロアヒンジ		● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 電気室、自家発電室などの基礎及びビッド (蓋を含む)		● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 天井点検口		● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置 屋上設置	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 機器付属の制御盤及び操作盤から機器までの配線		● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 機器用コントロールスイッチ (空調機、給湯器等) の取付及び配線		● ● ●	● ● ●	● ● ●

15 工事用水・電力・その他

16 表示板

本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。  
設ける。(寸法等は下図による。建築工事、電気設備工事等と一緒に表示する。)

※ 工事表示板 ● お願い表示板

900 1,200

建築工事中

御通行中の皆様へ

工事名 ○○○○○新築工事  
構造・規模 鉄筋コンクリート造 ○階建  
延べ面積 ○○○○㎡  
工事期間 令和○年○月○日から○年○月まで  
設計者 ○○○○○設計  
監理者 ○○監理事務所建築士事務所  
○○○○設計  
施工者 ○○○○○建設  
連絡先 電話 ○○-○○○○  
現場責任者 ○○○○

鳥取県○○総合事務所環境建築局  
建築士登録 ○○担当  
連絡先 ○○-○○○○

記入要領  
1. 書体は角ゴシックとする。  
2. お願い表示板は平易な表現及び内容とし、監督員が指示するものとする。

17 足場

18 工事用仮設物

19 土工事

20 保温工事

「手すり先行工法等に関するガイドライン」に基づく足場の設置にあたっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。


構内に作ることが ※ 出来る ● 出来ない (一般水溝)

(ア) 埋め戻し土 ● 根切土のなかの良質土 ( ● コンクリート管以外の管の周囲は山砂の類 ) ● 山砂の類 ( ) ● 真砂土 ( )

(イ) 建設発生土処分 ● 構内に搬出 ● 構内に敷ならし ● 構内の指示する場所に堆積

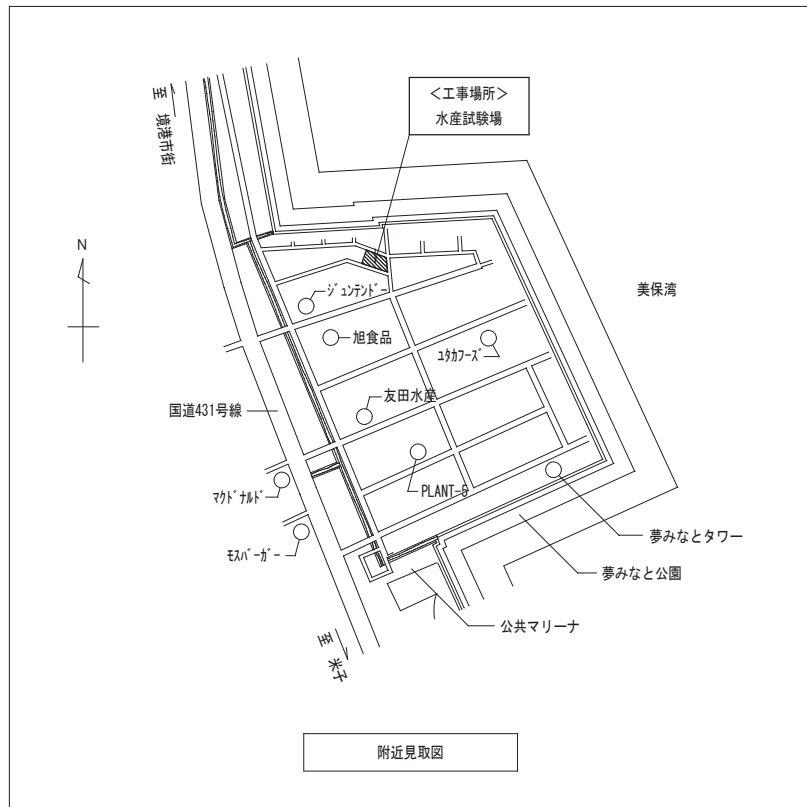
● 冷温水管 ( ● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム ● )  
● 蒸気管 ( ● ロックウール ● グラスウール ● )  
● 給水管 ( ● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム ● )  
● 保温チューブ (厚さ②) ● )  
● 排水管 ( ● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム ● 保温チューブ10t ● )  
● 給湯管 ( ● ロックウール ● グラスウール ● 保温チューブ (厚さ②) ● )  
● 消火管 ( ● ロックウール ● グラスウール ● ポリスチレンフォーム ● )  
● ダクト ( ● ロックウール ● グラスウール ● )  
● 燃焼熱源等機械室内の配管 ( ● ロックウール ● グラスウール )  
● 全熱交換機の給気ダクト ( ● 機器外気側 ● 機器室内側 ) は保温 (グラスウール2.5mm厚) する。  
● 冷媒管の保温外装 屋内 ( ● 樹脂製化粧ケース ● 合成樹脂製シート ● )  
屋外 ( ● 樹脂製化粧ケース ● SUS鋼板 ● )



<p>一般共通事項</p> <p>21 鋼管類の防食処置</p> <p>22 絶縁継手</p> <p>23 防振継手</p> <p>24 伸縮管継手</p> <p>25 塗装</p> <p>26 ステンレス鋼管の接合方法</p> <p>27 溶接配管の検査</p> <p>28 埋設表示</p> <p>29 支持金物・固定金具</p> <p>30 総合試運転調整</p> <p>31 アスベスト含有建材の処理</p> <p>32 補修など</p> <p>33 はつり</p> <p>34 はつり工事における非破壊検査</p> <p>35 室内空気中の化学物質の濃度測定</p> <p>36 火災保険等</p> <p>37 グリーン購入</p> <p>38 鳥取県公共工事環境配慮指針</p> <p>39 建築物省エネ法</p> <p>40 耐震施工</p>	<p>地中埋設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベトロラタム系</li> <li>ブテルゴム系</li> <li>熱収縮チューブ及びシート</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準図(施工3)</li> <li>(1)絶縁フランジ</li> <li>(2)絶縁シート</li> <li>(3)絶縁スリーブ</li> <li>(4)絶縁ユニオン</li> </ul> <p>※合成ゴム製(球形)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポリテトラフルオロエチレン製</li> <li>ペローズ形(ステンレス製)</li> </ul> <p>※ペローズ形</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スリーブ形</li> </ul> <p>各種機材のうち、下記の部分は塗装しない。(さび止め塗装は除く。)</p> <p>(ア)埋設されるもの(ただし、防食塗装部分を除く)</p> <p>(イ)垂鉛めっき以外のめっき仕上げ面</p> <p>(ウ)垂鉛めっきされたもので、常時隠べいされる部分</p> <p>(エ)垂鉛めっきされた金属電線管、鋼製架台及び支持金物類</p> <p>(オ)樹脂コーティング等をしたもので、常時隠べいされる部分</p> <p>(カ)カラー亜鉛鉄板面</p> <p>(キ)アルミ、ステンレス、銅、溶融アルミニウム-亜鉛鉄板面、合成樹脂製等、特に塗装の必要を認められない面</p> <p>(ク)特殊な意匠的表面仕上げ処理をした面</p> <p>(ケ)主・各階機械室内等及び電気室内の垂鉛めっきされた露出ダクト及び露出配管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記及び標準仕様書によらず塗装を施す部分・箇所(保温を行わない露出鋼管外面)</li> </ul> <p>呼び径60以下以下の継手は、SAS322を満足するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ガス配管</li> <li>冷温水配管</li> <li>冷却水配管</li> </ul> <p>非破壊検査の適用(放射線透過検査、浸透探傷検査又は磁粉探傷検査)</p> <p>採取率(標準仕様書による%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地中埋設標を明示する箇所に設ける。</li> <li>埋設表示用テープを埋設する。(ガス管、屋外給水管)</li> </ul> <p>ポンプ、屋外設置機器及びピット内に使用するアンカーボルト、ナットはSUS304製とする。</p> <p>屋外及びピット内の配管、ダクトに使用する支持金物等はステンレス製または溶融亜鉛めっき仕上げとする。</p> <p>下記事項の総合調整を行い、測定結果を監督職員に提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>温度</li> <li>湿度</li> <li>風量</li> <li>騒音</li> <li>水量</li> <li>浄化槽放流水質</li> <li>風速</li> <li>じんあい</li> <li>飲料水水质</li> <li>一般飲料水適否検査</li> <li>その他水质等(雑用水、空調用流体)</li> </ul> <p>公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 9章 環境配慮改修工事 1節 石綿含有建材の除去工事による。処理を行うアスベスト含有建材の仕様等</p> <table border="1"> <tr> <th>建材の内容・箇所</th> <th>仕様等</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> <tr> <td>アスファルト防水</td> <td></td> <td>M-5 参照</td> </tr> </table> <p>※ 県有施設の石綿除去等に係る施工業者の登録制度による登録を受けている業者を活用するものとする。</p> <p>※ 官公署その他への手続きは、同じ仕様書ほか、労働安全衛生法、大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、石綿障害予防規則、鳥取県石綿健康被害防止条例等の関係法令に基づいて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施工調査(分析によるアスベスト含有建材の調査)を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>分析方法はJISA1481「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。</li> </ul> </li> <li>アスベスト粉じん濃度測定を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>測定時期:</li> <li>測定場所:</li> <li>測定点:</li> </ul> </li> <li>洗浄設備(洗眼、うがいの設備)及び更衣設備等を設ける。</li> <li>作業場の養生として、処理場所をプラスチックシート等で囲い、外部への粉じん飛散を防止する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>対象箇所( )</li> </ul> </li> </ul> <p>工事の施工に伴い既成部分を汚染又は損傷した場合は、既成にならい補修する。</p> <p>既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。</p> <p>探査方法 ※電磁誘導式 ●放射線透過検査</p> <p>実施する。</p> <p>工事目的物及び工事材料等工事施工中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加入する。(保険の加入期限は、工事完成引渡しまで[概ね工期+21日]とする。)</p> <p>グリーン購入は次のものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空調用機器(7.5馬力未満)</li> <li>衛生器具</li> <li>断熱材</li> <li>配管材(再生硬質ポリ塩化ビニル管)</li> <li>その他</li> </ul> <p>対象工事</p> <p>対象工事</p> <p>設備機器の固定は、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。ただし、重量1kN以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合は、この限りではない。</p> <p>(1) 機器の据付け及び取付け</p> <p>設計用水平地震力は、機器の重量(自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量)[kN]に、地域係数と次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">設計用標準水平震度</th> <th colspan="2">● 特定の施設</th> <th colspan="2">● 一般の施設</th> </tr> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>● 重要機器</th> <th>● 一般機器</th> <th>● 重要機器</th> <th>● 一般機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">上層階 屋上、塔屋</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>防振設置機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水槽類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">中間階</td> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振設置機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>水槽類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">地階・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>防振設置機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>水槽類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> </tbody> </table> <p>上層階の定義 2～6階建:最上階、7～9階建:上層2階、10～12階建:上層3階、13階建以上:上層4階</p> <p>中間階の定義 地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの</p> <p>重要機器 ●換気機器 ●空調機器 ●熱源機器 ●防炎機器 ●監視制御設備 ●危険物貯蔵装置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>火を使用する設備 ●避難経路上に設置する機器 ●水槽類(燃料小出槽を含む)</li> <li>( )</li> </ul> <p>(2) 設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。</p> <p>(3) 設備機器の耐震支持及びアンカーボルトの許容耐力と選定については、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」(一財)日本建築センターを参考にする。</p>	建材の内容・箇所	仕様等	処理を行う範囲	アスファルト防水		M-5 参照	設計用標準水平震度		● 特定の施設		● 一般の施設		設置場所	機器種別	● 重要機器	● 一般機器	● 重要機器	● 一般機器	上層階 屋上、塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0	防振設置機器	2.0	2.0	2.0	1.5	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0	中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6	防振設置機器	1.5	1.5	1.5	1.0	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6	地階・1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4	防振設置機器	1.0	1.0	1.0	0.6	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6	<p>1 空気調和設備</p> <p>2 冷暖房設備</p> <p>3 換気設備</p> <p>15 吹出口・吸込口</p> <p>16 チャンパー等</p> <p>17 消音内貼り</p> <p>18 瞬間流量計及び流量測定口</p> <p>19 定風量・変風量ユニット</p> <p>20 温度計</p> <p>21 冷温水管の空気抜き</p> <p>22 空調機用トラップ</p> <p>23 銅板製煙道</p> <p>24 オイルサービスタンク</p> <p>25 地下オイルタンク</p> <p>26 油面制御装置</p> <p>27 フィルター等付属品</p> <p>28 パッケージ空調機の能力表示</p> <p>29 防振吊り及び支持金物</p> <p>4 排煙設備</p> <p>5 自動制御設備</p>	<p>1 設計用温湿度条件</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">外気条件</th> <th colspan="4">室内(調整目標値)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">一般</th> <th colspan="2">( )</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">温度 (DB)</th> <th rowspan="2">湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>夏季</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> </tr> </tbody> </table> <p>※SGP(白) ●SGP-V A ●SGP-P A</p> <p>※SGP(白) ●SGP-HVA ●ステンレス鋼管(SUS304)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>架橋ポリエチレン管(ファンコイル機器接続部に限る)</li> <li>ポリブテン管(ファンコイル機器接続部に限る)</li> </ul> <p>※SGP(白) ●ステンレス鋼管(SUS304)</p> <p>※SGP(黒)</p> <p>※STPG370-Sch40(黒) ●ステンレス鋼管(SUS304)</p> <p>一般配管 ※SGP(黒) 地中配管 ※合成樹脂被覆鋼管</p> <p>※断熱材被覆鋼管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ステンレス鋼管 ●SGP-V A ●</li> <li>※SGP(白) ●VP ●カラーVP</li> <li>※5K ●10K</li> </ul> <p>※流量調整弁 ●定流量弁(ダイヤフラム式流量可変式 ●カートリッジオリフィス形)を取付ける。</p> <p>(ア)防煙ダンパー ※遠隔復帰式 ●電気式</p> <p>(イ)ピストンダンパー ※遠隔復帰式 ●</p> <p>※低圧ダクト ●高圧1ダクト ●高圧2ダクト</p> <p>※長方形ダクト ●コーナーボルト工法(共板工法(動作電圧(電機仕様の規定)以下とする。)(長辺150mmを超えるものはアングルフランジ工法とする。))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アングルフランジ工法</li> <li>防火区画を貫通するダクトは、その貫通する部分の前後150mmを1.6mm厚鋼板とする。</li> </ul> <p>ボックス ※亜鉛鉄板製 ●グラスウール製</p> <p>シーリングディフューザーの接続は、標準図(施工49)を参考とする。</p> <p>接続するダクトの施工が困難な場合はフレキシブルダクトを使用してもよい。</p> <p>線状吹出口には、(長さ+100)×300×300Hの接続チャンパーを設ける。</p> <p>外壁に面するガラリにチャンパー等を設ける場合には、雨水等を自然に排出できるよう勾配をつける。</p> <p>吹出口接続チャンパー及び図示したダクト並びにチャンパー類に内貼する。</p> <p>内貼りチャンパー類の寸法は、外法寸法とする。</p> <p>吹出口接続チャンパー以外の内貼りしたチャンパーにはは点検口(原則400×600)を取付ける。</p> <p>形式はピトー管式(コック付)とする。 ●着脱式 ●固定式</p> <p>下記の箇所、若しくは図示により取付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冷凍機類の冷水出口 ●瞬間流量計 ●測定用タッピング</li> <li>冷凍機類の冷却水出口 ●瞬間流量計 ●測定用タッピング</li> <li>ポイラー又は熱交換器の温水出口 ●瞬間流量計 ●測定用タッピング</li> <li>冷温水ヘッダーの各送水管 ●瞬間流量計 ●測定用タッピング</li> <li>ユニット形空気調和機の冷温水入口 ●瞬間流量計 ●測定用タッピング</li> <li>メカニカル形 ●風速センサー形</li> </ul> <p>機器付属以外の温度計 ※工業用バイメタル式 ●ガード付L形温度計</p> <p>空気溜りを生ずると思われる配管箇所には、必要に応じて操作の容易な位置に空気抜き弁装置を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※手動 ●自動</li> </ul> <p>自動空気抜き弁装置は標準図による。(施工38(g))</p> <p>機械室の手動式空気抜き配管の保温は分岐から2mの範囲とする。</p> <p>トラップ形式はフロートボール式(床置型) ※FRP製保温型 ●FRP製 ●SUS製</p> <p>材質及び厚さ ●SS400(※3.2mm ●4.5mm) ●SUS(※1.5mm ●2.0mm)</p> <p>煤煙濃度計 ●取付ける ●取付けない ●取付座を付ける</p> <p>煤じん量測定口(80φ×2) ※取付ける ●取付けない</p> <p>油面計はゲージ式(側圧計)とする。</p> <p>据付け方法 ●標準図(施工32)(二重設タンク・タンク室無し) ●標準図(施工33)(タンク室有り)</p> <p>タンクの保護被覆 ※強化プラスチック ●エポキシ樹脂 ●アスファルト</p> <p>基礎杭 ※不要 ●要(※別途工事 ●本工事)</p> <p>土留め工事 ●要 ●不要</p> <p>タンクローリー用アース端子を設ける。</p> <p>油面制御装置の機能 ●給油ポンプの起動停止 ●満油警報 ●減油警報 ●</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●機器表特記による。</li> <li>●空気調和機のフィルターは、ロールの場合は1本、ユニットの場合は1セットを付属品として納入する。</li> </ul> <p>インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。</p> <p>標準仕様書によるほか、中央機械室の冷却水管、冷温水管等の吊り及び支持は防振吊り金物又は防振支持金物で行う。</p> <p>※亜鉛鉄板製 ●鋼板製(厚1.6mm)</p> <p>形状 ●バネル形 ●スリット形 ●ダンパー形</p> <p>取付け ●天井取付 ●壁取付</p> <p>電気式(遠隔操作) ※不要 ●要</p> <p>建築設備定期検査業務基準書2016年版(一財)日本建築設備・昇降機センター)の検査方法に準ずる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●有り(構成機能は、図示による) ●無し</li> <li>●要(●本工事 ●別途工事) ●不要</li> <li>取付高さ ※1300mm ● mm</li> <li>●屋外、屋内露出の配線は、図面に表記のない限り金属管配線とする。</li> <li>●天井隠べいの配線は、図面に表記のない限りケーブル配線とする。</li> </ul>	外気条件		室内(調整目標値)				一般		( )		温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	夏季	℃	%	℃	%	℃	冬季	℃	%	℃	%	℃	<p>6 衛生器具設備</p> <p>1 衛生器具の参考型番</p> <p>2 小便器用節水装置</p> <p>3 自動水栓</p> <p>4 大便器洗浄弁</p> <p>5 温水洗浄便座</p> <p>6 器具と排水管接続</p> <p>7 給水設備</p> <p>8 排水設備</p> <p>9 給湯設備</p> <p>10 消火設備</p> <p>11 ガス設備</p> <p>12 浄化槽設備</p>	<p>型番変更により参考型番が変更又は廃止されている場合、参考型番の同等品とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※小便器一体型 ●小便器分離型</li> <li>●洗浄水量4リットル/回以下</li> <li>※個別感知方式(●AC電源 ●自己発電 ●乾電池) ●手動式</li> </ul> <p>電源供給方式 ●AC電源 ●自己発電 ●乾電池</p> <p>操作方式 ●電気開閉式(●センサー式 ●タッチスイッチ式) ●手動式</p> <p>洗浄水加熱方式 ●瞬間式 ●貯湯式</p> <p>※標準図(施工64) ●標準図(施工65)</p> <p>1 量水器</p> <p>2 配管材料</p> <p>3 弁類</p> <p>4 水槽のマンホール</p> <p>1 配管材料</p> <p>2 弁類</p> <p>1 配管材料</p> <p>2 弁類</p> <p>3 保溫</p> <p>4 屋内消火栓</p> <p>5 ガス系消火剤の種類</p> <p>6 ガス系消火の起動方式</p> <p>1 都市ガス設備</p> <p>2 配管材料</p> <p>3 ガスメータ</p> <p>4 パルク貯槽</p> <p>5 容器廻りの配管</p> <p>6 容器転倒防止</p> <p>7 ガス漏れ警報器</p> <p>1 処理種別及び方式</p> <p>2 型式</p> <p>3 処理能力</p> <p>4 放流水の水質</p> <p>5 排水方式</p> <p>6 埋戻し土</p> <p>7 土留め工事</p> <p>8 マンホールふた</p> <p>9 消毒薬</p> <p>●親メーター ※借用 ●買取(※直読 ●遠隔表示)</p> <p>●子メーター ※買取 ●借用(※直読 ●遠隔表示)</p> <p>(ア)一般配管 ●SGP-VB ●SGP-PB ●SUS304 ●SUS316 ●HIVP ●架橋ポリエチレン管</p> <p>(イ)土間下配管 ●SGP-VD ●SGP-PD ●HIVP ●SUS304 ●SUS316</p> <p>(ウ)地中配管 ●SGP-VD ●SGP-PD ●HIVP ●SUS304 ●SUS316 ●水道配水用ポリエチレン管(75~100A) ●水道用ポリエチレン二層管(50A以下)</p> <p>(エ)特記なき給水管の最小口径は20Aとする。</p> <p>(オ)ビニル管の接合方法 ※接着接合 ●ゴム輪接合(直管以外の継手部には離脱防止金具取付とする。)</p> <p>(カ)ポリエチレン管の接合方法 50A以下 ※金属製継手 ●融着継手 75A以上 ※融着継手</p> <p>※口径65A以上の仕切弁及び逆止弁は、ライニング弁とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●5K(受水槽以降の配管に使用) ●10K(公営水道に直結する配管に使用)</li> <li>●公営水道事業者指定の止水栓又は弁(給水引込部に使用)</li> </ul> <p>屋外に設置する水槽のマンホール蓋は保溫形(二重蓋含む)とする。</p> <p>(ア)屋内汚水管 ●VP ●RF-VP ●排水用塩ビライニング鋼管 ●耐火二層管</p> <p>(イ)屋内雑排水管 ●VP ●RF-VP ●SGP(白) ●排水用塩ビライニング鋼管 ●耐火二層管</p> <p>(ウ)ポンプ排水管 ●VP(水道用) ●HIVP ●排水用塩ビライニング鋼管(圧送排水管用継手)</p> <p>(エ)通気管 ●VP ●RF-VP ●SGP(白) ●排水用塩ビライニング鋼管</p> <p>(オ)屋外排水管 ●VP ●RF-VP ●VU(地中) ●REP-VU(地中) ●RS-VU ●卵形管 ●コンクリート管</p> <p>3階以上にわたる排水管立て管に漏水試験継手を ●取付ける ●取付けない</p> <p>※施工する ●施工しない</p> <p>※行ななくてもよい ●図示の系統のみ行う</p> <p>●SGP-HVA ●ステンレス鋼管 ●架橋ポリエチレン管</p> <p>●保温付被覆鋼管 ●鋼管</p> <p>湯沸器、給湯機廻りの付属配管等は製造業者標準品とする。</p> <p>※5K ●10K</p> <p>(ア)一般配管 ●SGP(白) ●STPG</p> <p>(イ)土間下配管 ●SGP-VS ●STPG-VS</p> <p>(ウ)地中配管 ●SGP-VS ●STPG-VS</p> <p>※10K ●16K</p> <p>(ア)呼水タンク ※施工しない ●施工する</p> <p>(イ)充水タンク ※施工しない ●施工する</p> <p>(ウ)配管の保温は次による。(屋外露出箇所は種別e3・(ハ)・Ⅶによる)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●屋内消火栓用(※施工しない ●施工する) ●スプリンクラー用(※施工しない ●施工する)</li> <li>●連結送水用(※施工しない ●施工する) ●連結放水用(※施工しない ●施工する)</li> <li>●広範囲型2号消火栓 ●易操作性1号消火栓 ●屋内消火栓(●1号 ●2号)</li> <li>●窒素 ●IG-541 ●IG-55 ●HFC-227ea ●HFC-23</li> </ul> <p>※手動 ●自動手動切替式</p> <p>都市ガスはガス供給事業者の供給約款による。</p> <p>(ア)一般配管 ※SGP(白) ●合成樹脂被覆鋼管</p> <p>(イ)土間下配管 ※合成樹脂被覆鋼管</p> <p>(ウ)地中配管 ※合成樹脂被覆鋼管 ●ガス用ポリエチレン管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●親メーター ※借用 ●買取(取付け ●別途 ●本工事)</li> <li>●子メーター ※買取 ●借用(取付け ※本工事 ●別途)</li> <li>●縦型 ●横型 ●借用 ●買取</li> <li>●標準図(施工73)の ●要領(a) ●要領(b) ●要領(c)</li> <li>●標準図(施工74)の ●要領(a) ●要領(b)</li> <li>●不要 ●要(※別途工事 ●本工事)</li> </ul> <p>●小規模合併処理(●分離接触ばっ気方式 ●嫌気床接触ばっ気方式 ●脱窒床接触ばっ気方式 ●その他性能評価を受けた方式( ))</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●合併処理(●接触ばっ気方式 ●長時間ばっ気方式 ●回転板接触方式)</li> <li>●ユニット型 ●現場施工型</li> <li>●処理対象人員 ●処理水量 m<sup>3</sup>/d</li> <li>●流入BOD 200mg/L ●放流水質BOD 20mg/L以下</li> <li>●T-N mg/L以下 ●T-P mg/L以下</li> </ul> <p>※自然流下 ●ポンプ排水</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●砂 ●根切土の中の良質土</li> <li>●不要 ●要(図示による)</li> </ul> <p>※製造者標準仕様(ロック式) ●MHA型(ボルト式)</p> <p>3ヶ月相当分を納入する。</p>
	建材の内容・箇所	仕様等	処理を行う範囲																																																																																																
	アスファルト防水		M-5 参照																																																																																																
	設計用標準水平震度		● 特定の施設		● 一般の施設																																																																																														
	設置場所	機器種別	● 重要機器	● 一般機器	● 重要機器	● 一般機器																																																																																													
	上層階 屋上、塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0																																																																																													
		防振設置機器	2.0	2.0	2.0	1.5																																																																																													
		水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0																																																																																													
	中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6																																																																																													
		防振設置機器	1.5	1.5	1.5	1.0																																																																																													
水槽類		1.5	1.0	1.0	0.6																																																																																														
地階・1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4																																																																																														
	防振設置機器	1.0	1.0	1.0	0.6																																																																																														
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6																																																																																														
外気条件		室内(調整目標値)																																																																																																	
		一般		( )																																																																																															
温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)																																																																																														
		夏季	℃	%	℃	%	℃																																																																																												
冬季	℃	%	℃	%	℃																																																																																														
 <p>有限会社 亀山設計</p> <p>鳥取県米子市両三柳724番地11 一級建築士事務所 登録第05-1356号</p>		<p>CHECK</p> <p>DRAWING</p> <p>縮尺 A2: --</p> <p>設計年月日 R6.02</p>	<p>縮尺 A2: --</p> <p>設計年月日 R6.02</p>	<p>工事名称 水産試験場トイレ洋式化改修工事</p> <p>図面番号 M-2/5</p>	<p>図面名称 機械設備工事特記仕様書(2)</p> <p>NO</p>																																																																																														

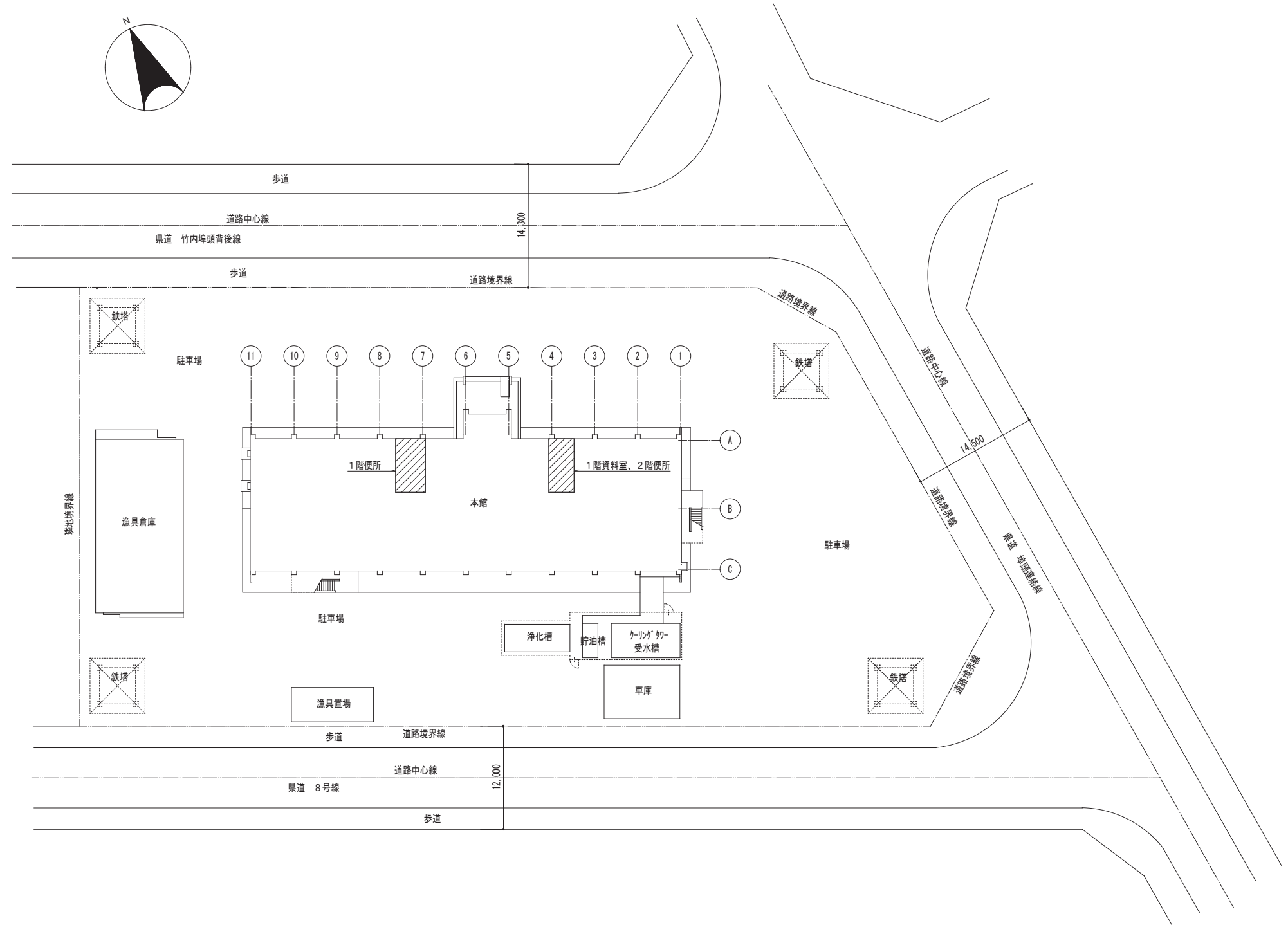






**工事概要**

- ・本館1、2階便所計4ヶ所の和風便器を洋風便器に改修する。
- ・上記に伴い、天井改修、トイレブース扉の外開き改修、電気設備改修を行う。



配置図 S=1:400 ※ は、今回工事対象範囲を示す。

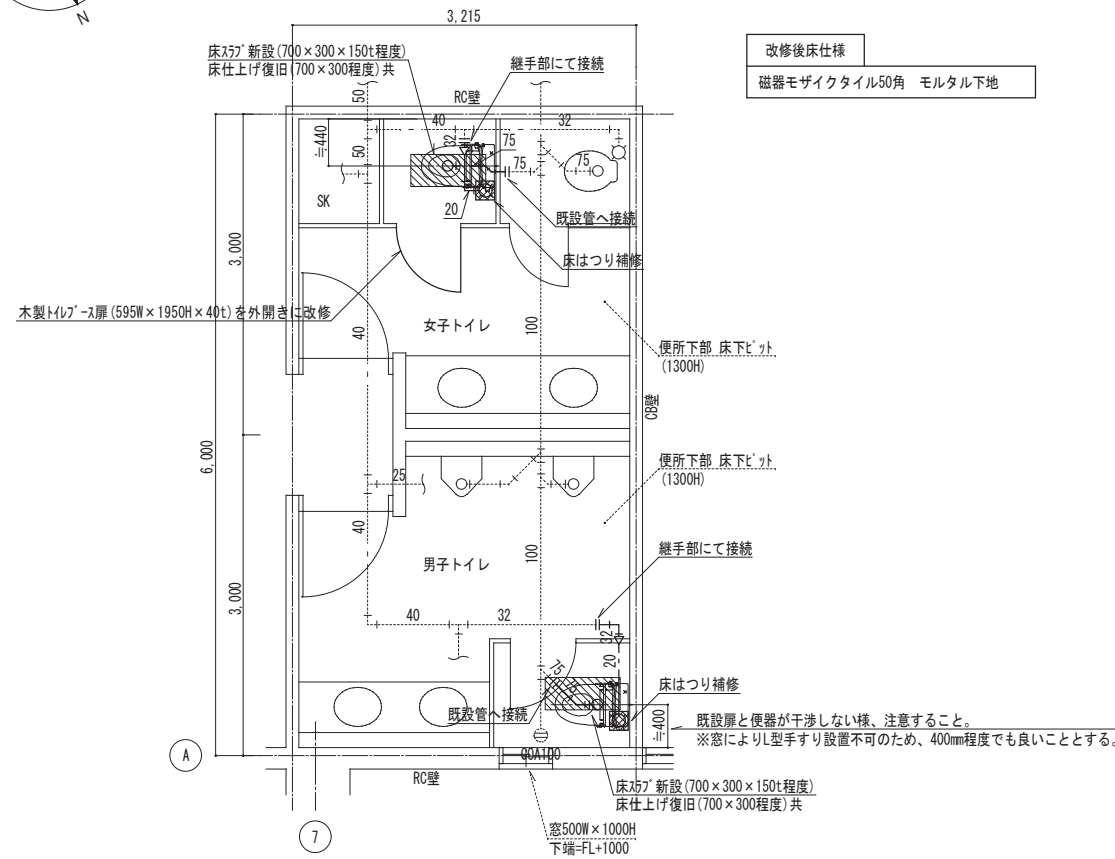


衛生器具表 (改修後)

名称	参考品番	仕様・付属品(参考品番:LIXIL)	設置室名	数量
洋風大便器	BC-P110HA (LIXIL)	D0-PA150CH(ハイバック式)、CW-PA21LQE-NE-R1(温水洗浄便座、貯湯式、便ふたあり、自動洗浄)	1階男子トイレ×1、1階女子トイレ×1	2
(リモデルタイプ)	CFS498BMK (TOTO)	ワゴン、洗浄スイッチ、騒音装置付)、CF-020-SET(シャワーヘッド分岐栓)、CF-63HST(棚付二連紙巻器)		
		※掃除口無し、ワイドカバーあり、床給水、床排水		

特記事項 (改修後共通)

- ※図中 ..... は、既設部を示す。
- ※図中 ---|--- は、既設管への接続部を示す。
- ※図中 [斜線] は、床スラブ及び仕上げの復旧範囲を示す。  
復旧時、既設コンクリート4面に差筋アンカー(D13@200)施工の上、配筋(D13@200)を行うこと。
- ※図中 [X] は、既設天井材取外し・再取付(450×900程度)箇所を示す。
- ※図中 [点線] は、既設天井点検口(450×450)を示す。
- ※図中 [格子] は、床のはつり補修部を示す。(仕上げ補修共)
- ※施工に先立ち、既設各配管等の口径・ルート・システム、運用方法を現地確認した上で施工すること。
- ※図中の各品番・寸法は全て参考とし、メーカーを指定するものではない。
- ※既存テラゾーブロックブース、木製扉及び吊り金物等は全て再使用とし、図示箇所のブース扉の開き勝手を外開きに改修する。
- ※ブース扉の外開き変更に伴い、現場にてドアノブ・「洋式トイレ」表示プレート等必要部品の新設、ブースの既設ボルト穴及び扉のビス穴埋め、ブースの穴開け等を行う想定としているが、監督員と改修方法を打合せし、施工に当たっては注意して施工を行うこと。
- ※既設床等の貫通は、鉄筋位置を調査の上行うこと。既設梁の貫通は不可とする。  
(スラブ耐震壁等で鉄筋切断となる場合は、監督員と打合せのこと。)
- ※屋内の必要箇所には、本工事にて足場等を設置し、安全に施工を行うこと。
- ※施工箇所以外の他系統給排水設備が長期間利用できない状況とならない様、必要箇所に仮設プラグ等を設置の上、工事を行うこと。
- ※既設建物を使用しながらの工事であるため、騒音・粉塵に十分配慮し、必要に応じて仮設を行い、既設設備を事前確認して施工すること。
- また、給水の断水、排水等の遮断ができる期間を施設側と協議し、工事時期を調整して施工すること。  
(1階・2階どちらかの便所を利用できる様に施工すること。)



1階平面詳細図 S=1:50 (改修後)

衛生器具表 (撤去)

名称	参考品番(LIXIL)	仕様・付属品	設置室名	数量
和風大便器	C-752BF	CF-S106U、SUS製紙巻器	1階男子トイレ×1、1階女子トイレ×1	2

既設管 凡例(※図中特記を優先する。)		
記号	名称	備考
---	給水管	SGP-VB
---	汚水・雑排水	VP (図中特記部:LP)
---	通気管	VP

※管種等は現場にて再調査の事。

既設保温材質 ※保温材質は、現場にて再調査の事。

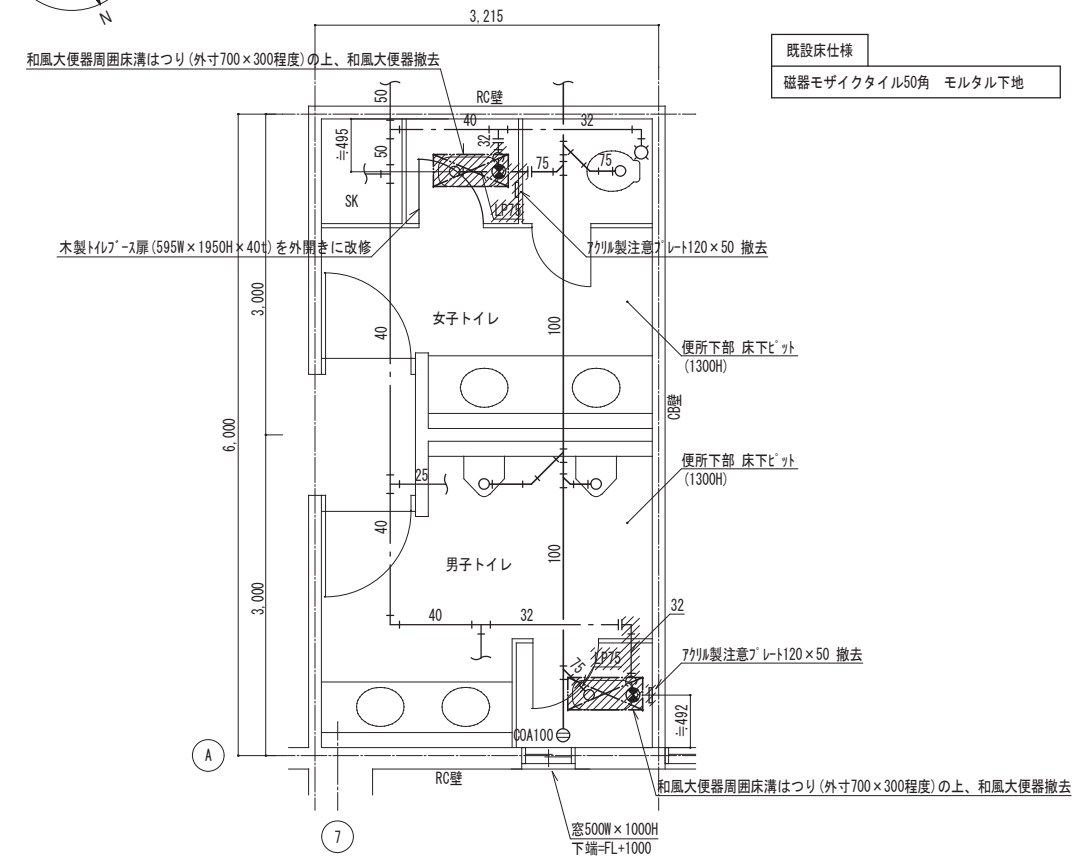
- 給水管 ビット内 ポリスチレンフォーム 防水麻布+アスファルトプライマー
- 給水管 天井内 ポリスチレンフォーム アルミガラスクロス化粧筒
- 排水管 //

特記事項

- ※表中 [斜線] は、撤去器具を示す。
- ※既設器具は現場にて再確認し、器具表と異なる場合は、監督員へ報告する事。

特記事項 (撤去共通)

- ※図中 [斜線] は、撤去部を示す。  
但し、壁内・RC内等の撤去不可能な配管は、そのままとする。
- ※図中 [X] は、床はつり後大便器撤去部を示す。
- ※施工に先立ち、既設各配管等の口径・ルート・システム、運用方法を現地確認した上で施工すること。
- ※既設器具及び配管支持材等撤去部のボルト・ビス穴埋め補修は、本工事とする。
- ※トイレ内の養生を行い、粉塵の飛散防止に努めること。
- ※屋内の必要箇所には、本工事にて足場等を設置し、安全に施工を行うこと。
- ※撤去器具・配管等は、法令を遵守し適切に撤出・処分を行うこと。
- ※施工箇所以外の他系統給排水設備が長期間利用できない状況とならない様、必要箇所に仮設プラグ等を設置の上、工事を行うこと。
- ※既設建物を使用しながらの工事であるため、騒音・粉塵に十分配慮し、必要に応じて仮設を行い、既設設備を事前確認して施工すること。
- また、給水の断水、排水等の遮断ができる期間を施設側と協議し、工事時期を調整して施工すること。  
(1階・2階どちらかの便所を利用できる様に施工すること。)



1階平面詳細図 S=1:50 (撤去)



衛生器具表 (改修後)

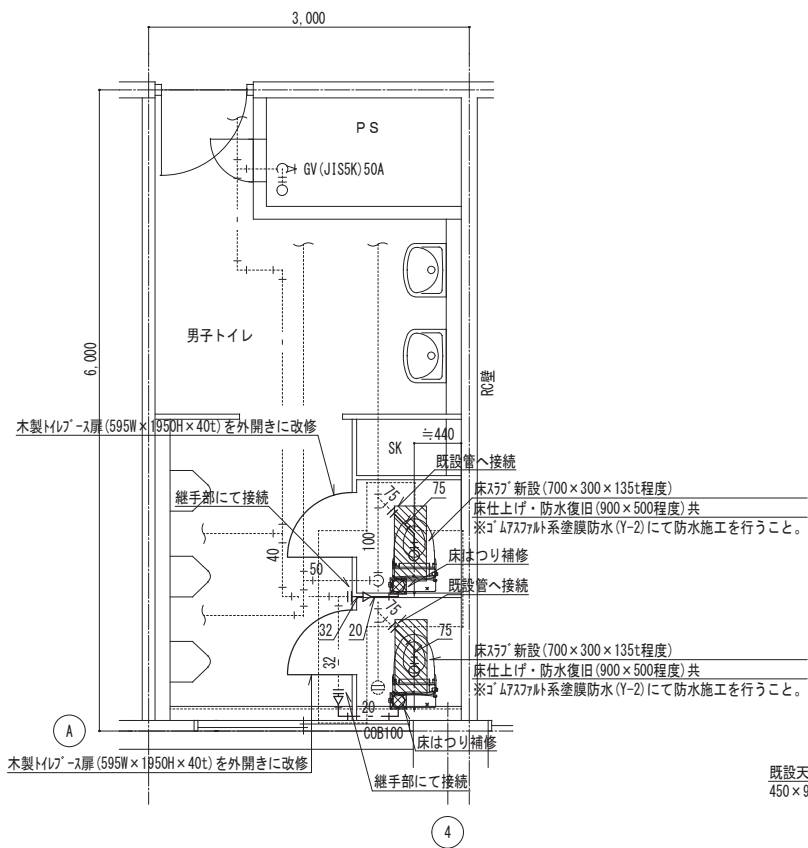
名称	参考品番	仕様・付属品 (参考品番: LIXIL)	設置室名	数量
洋風大便器 (リモデルタイプ)	BC-P110HA (LIXIL) CFS498BMT (TOTO)	DO-PA150CH (ケイパックス式)、CW-PA21LQE-NE-R1 (温水洗浄便座、貯湯式、便ふたあり、自動洗浄、リモコ、洗浄スリッパ、聲音装置付)、CF-020-SET (ケイトール分岐栓)、CF-63HST (棚付二連紙巻器) ※掃除口無し、サド加へあり、床給水、床排水 ※低水圧仕様 (TOTO)	2階男子トイレ×2	2



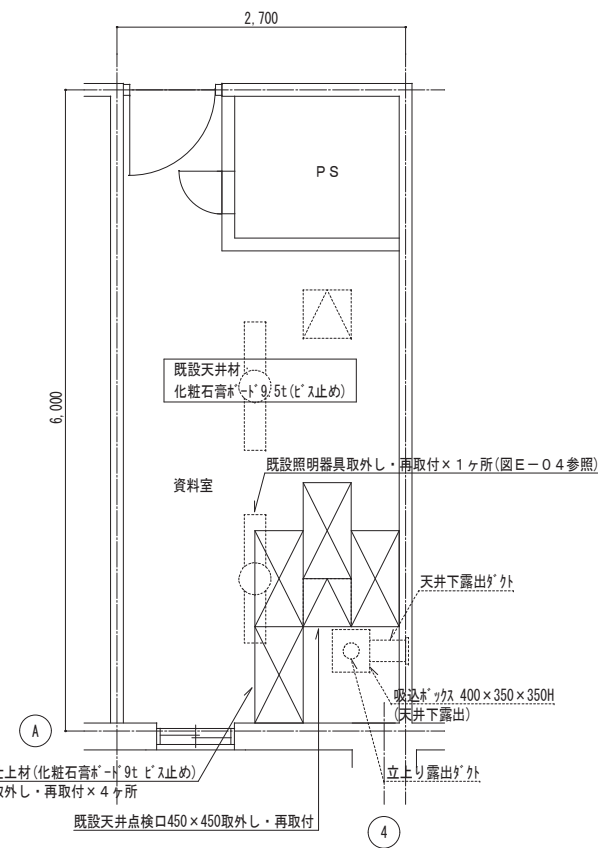
改修後床仕様

磁器モザイクタイル50角	モルタル下地
押さえコンクリート	60t
ゴムアスファルト系塗膜防水 (Y-2)	コンクリート下地

※既設防水層との重ねをとること。



2階平面詳細図 S=1:50 (改修後)



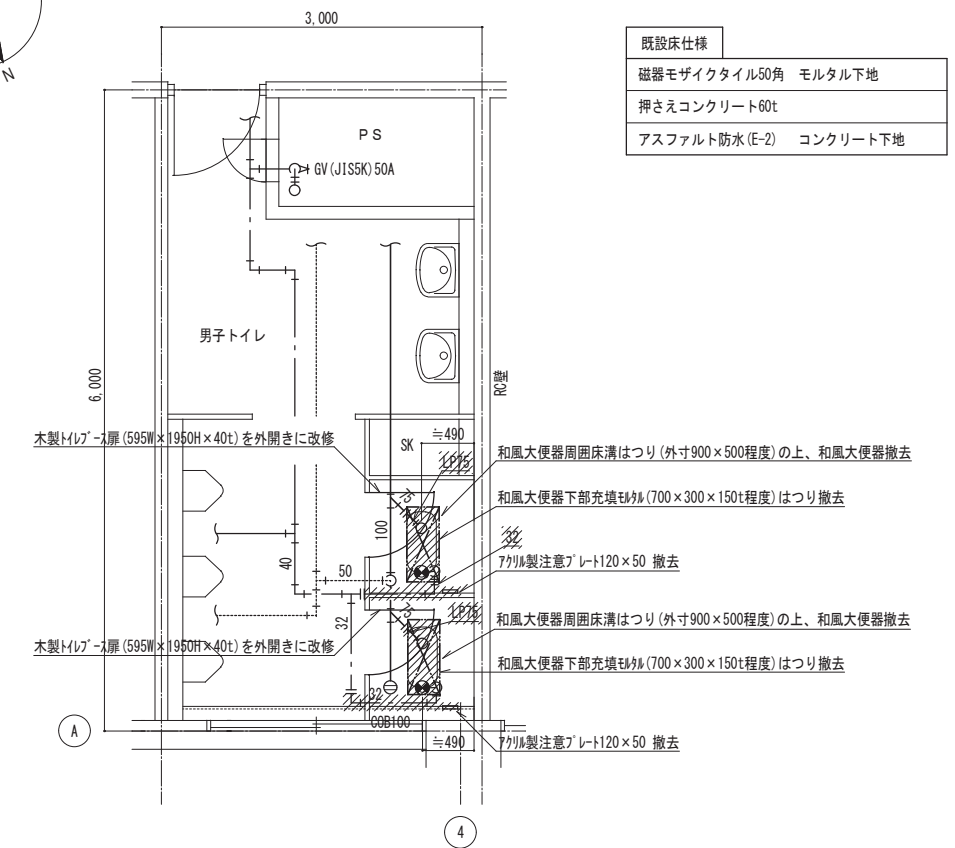
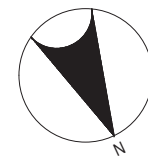
1階天伏図 S=1:50 (改修後)

衛生器具表 (撤去)

名称	参考品番 (LIXIL)	仕様・付属品	設置室名	数量
和風大便器	C-7520F	低圧EX、SUS製紙巻器	2階男子トイレ×2	2

アスベストについて

※今回工事の対象となる場所のアスファルト防水には、アスベストが含有されている物として撤去・処分を見込んでおり、検体調査費は見込んでいない。  
 ※和風大便器はつり撤去及び防水改修のための押さえコンクリートはつり時に、アスファルト防水が和風大便器及びはつり取ったコンクリートに付着する場合は、アスベストが含有されている物として、法令を遵守し適切に施工・処分を行うこと。  
 ※その他の材料で、アスベスト含有の可能性のある物を改修する場合は、監督員に報告すること。



2階平面詳細図 S=1:50 (撤去)

既設床仕様

磁器モザイクタイル50角	モルタル下地
押さえコンクリート	60t
アスファルト防水 (E-2)	コンクリート下地



# 電気設備工事特記仕様書

## I. 工事概要

1 工事場所 境港市竹内団地

## 2 建物概要

番号	建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積(m <sup>2</sup> )	消防法施行令別表第一の区分	備考
1	本館	RC	2	1,395.9	(15)項	
2					( )項	
3					( )項	
4					( )項	
5					( )項	

## 3 工事種目 (印の付いたものが対象工事種目)

工事種目	番号	1	2	3	4	5	屋外	備考
電灯設備		○						
動力設備								
電熱設備								
雷保護設備								
受変電設備								
電力貯蔵設備								
発電設備								
構内情報通信網設備								
構内交換設備								
情報表示設備								
映像・音響設備								
拡声設備								
誘導支援設備								
テレビ共同受信設備								
監視カメラ設備								
駐車場管制設備								
防犯・入退室管理設備								
火災報知設備								
中央監視制御設備								
医療関係設備								
構内配電線路								
構内通信線路								
テレビ電波障害防除設備								
機械設備工事								
建築工事								

## 4 設備概要 (本工事における工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。)

印の付いたものを適用する。

項目	特記事項
電灯設備	○ 電気方式 幹線 ● 単相3線式100/200V ● 直流2線式100V 分岐 ○ 単相2線式 (○ 100V ● 200V) ● 直流2線式100V ● 非常用照明器具 ● 誘導灯
動力設備	● 電気方式 幹線 ● 三相3線式200V ● 単相2線式200V ● 単相3線式100/200V 分岐 ● 三相3線式200V ● 単相2線式 (● 100V ● 200V)
雷保護設備	● 受雷部 ● 避雷導線 ● 接地極
受変電設備	● 電気方式 高圧 三相3線式 6.6kV 低圧 ● 三相3線式200V ● 単相3線式100/200V ● 単相2線式 (● 100V ● 200V) ● 契約電力 改修工事 既存設備 ● kW ● 設備形式 新営工事 ● 100kW未満 ● 100kW以上500kW未満 ● 500kW以上 ● 機器類 ● 屋内形 ● 屋外形 ● キュービクル式配電盤 (● P形 ● CB-1形 ● CB-2形) ● 高圧スイッチギア、変圧器盤 (CB-3形) 変圧器 三相 kVA、単相 kVA ● 油入 ● モールド 主遮断器 ● 限流ヒューズ ● VCB

項目	特記事項
電力貯蔵設備	● 直流電源装置 用途 ● 非常用照明器具電源および受変電設備制御電源共用 ● 受変電設備制御電源専用 ● 非常用照明器具電源専用 蓄電池 ● HS形鉛蓄電池 ● MSE形鉛蓄電池 ● (Ah) 形式 ● 標仕によるUPS ● 簡易形UPS 用途 ● 電算機用
発電設備	● 自家発電装置 電気方式 三相3線式 ● 6.6kV ● 210V 機器類 形式 ● キュービクル形 ● 簡易形 ● オープン形 発電機 (kVA以上) 原動機 ● ディーゼル ● ガスタービン 防油堤 ● コンクリート製 ● 鉄板製 (● 本工事 ● 別途工事) モジュール ● 結晶シリコン ● 薄膜 ● ● 風力発電装置
通信情報設備	● 構内情報通信網設備 ● 機器 ● 配管のみ ● 配管及び配線 ● 構内交換設備 ● 交換機 ● 局線中継台 ● 電話機 ● ボタン電話装置 ● 配管のみ ● 配管及び配線 ● 情報表示設備 ● マルチサイン装置 ● 出退表示装置 ● 時刻表示装置 ● 映像・音響設備 ● 増幅器 ● スピーカー ● プロジェクタ ● スクリーン ● その他 ( ) 用途 ● 一般放送 ● 非常放送 ● 個別放送 ● 拡声設備 ● 音声誘導装置 ● 身体障害者用インターホン装置 ● トイレ等呼出し装置 ● 誘導支援設備 ● インターホン ● テレビインターホン ● ナースコール ● テレビ共同受信設備 ● アンテナ (● UHF ● BS ● CS) ● CATV ● 監視カメラ設備 ● カメラ ● ビデオモナ ● タイムラプスVTR ● 配管のみ ● 配管及び配線 ● 駐車場管制設備 ● 車両検知方式 ● 光線式 ● ルーポル形式 ● 防犯・入退室管理設備 ● 機器 (● 本工事 ※ 別途工事) 配管 (● 本工事 ※ 別途工事) 配線 (● 本工事 ※ 別途工事) ● 自動火災報知設備 ● 受信機 (● P型 ● R型) ● 副受信機 ● 中継器 ● 感知器 ● ● 自動閉鎖設備 ● 連動制御器 (回線 ● 単独 ● 火報受信機と一体) 感知器 (● 共用 ● 専用) ● 非常警報設備 ● 複合装置 ● 一体形 (※ 一般型 ● 防雨型) ● 単独 ● ガス漏れ火災警報設備 ● 受信機 (回線 ● 単独 ● 火報受信機と一体 ● LPガス用 ● 都市ガス用)
中央監視設備	● 形式 ● 警報盤 ● 表示操作盤 ● 監視制御装置 ● 監視制御対象設備 ● 動力設備 ● 受変電設備 ● 自家発電設備 ● 防災設備 ● 照明制御 ● 給排水設備 ● 空調設備 ● 伝送方式 ● アナログ方式 ● デジタル方式
構内配電線路	● 電気方式 三相3線式 (● 6.6kV ● 200V) ● 単相3線式100/200V ● 単相2線式 (● 100V ● 200V) ● 施工方法 ● 地中埋設式 ● 架空線式 ● 外灯点滅方式 ● 手動 ● 自動 (● タイマー ● 自動点滅器 ● 中央監視)
構内線路	● 用途 ● 電話用 ● 時計拡声用 ● 火災報知用 ● インターホン用 ● 情報通信網用 ● CATV ● 施工方法 ● 地中埋設式 ● 架空線式
消防設備	● 対策方針 ● 都市形CATVへの加入 ● 共同受信方式 (● 共同アンテナ ● 館内用アンテナ用) ● 責任分界点 ● 各戸の保安器一次側 ●

## II. 特記仕様

### 1 一般事項

- 現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官庁官庁管轄部監修の標準仕様等のうち印の付いたものによる。
  - 公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)(以下、「標準仕様書」という。)
  - 公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和4年版)(以下、「改修標準仕様書」という。)
  - 公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)(令和4年版)(以下、「標準図」という。)
- 国土交通省大臣官庁官庁管轄部監修の「電気設備工事監理指針(令和4年版)」(以下「監理指針」という。)を適用する。
- 機械設備工事及び建築工事を本工事に含む場合、機械設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書及び監理指針を適用する。

### 2 特記事項

- 項目は番号に印の付いたものを適用する。
- 特記事項のうち選択する事項は印の付いたものを適用する。
  - 印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。印と印の付いた場合は共に適用する。
- 一般共通事項のうち ( 1, 2, 5, 9, 10, 12, 13, 14, 15, 35 ) 項は、● 建築 ● 機械設備 工事特記仕様書による。

項目	特記事項
1 官公署その他への手続	工事の施工に伴い必要な官公署その他への手続き、検査並びにその費用は、請負者の負担とする。
2 電気保安技術者	工事現場における電気保安技術者は、鳥取県総務部管轄工事自家用電気工作物保安規程第5条に定める工事担当技術者の職務を補佐し、当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。 なお、電気保安技術者の資格は標準仕様書第1編第1章第3節1.3.2によるものとし、一般用電気工作物に係る工事についても、自家用電気工作物の場合と同様の業務を行うものとする。 契約電力500kW以上の場合においても、第1種電気工事士により施工を行う。
③ 電気工事士	建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に工事安全計画書を作成し監督職員に提出する。引渡しを要するもの ※ 無し ● 有り ( )
4 工事安全計画書等	引渡しを要するもの以外は、構外搬出適切処理とする。
5 発生材の分析及び処理	特別管理産業廃棄物 ※ 無し ● 有り ● 本工事において調査を行う (● PCB使用機器 ● アスベスト含有設備資材材 (● 配線用遮断機 ● PCB使用機器は関係法令等に従い適切に処理する。撤去予定機器の微量PCB分析 ※ 無し ● 有り

⑥ 機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等以上の品質及び性能を有するものとする。また、製造者等が定められている機材については、Ⅲ. 機材によるほかこれらと同等以上のものとする。ただし、これらと同等以上のものとする場合は、設計図書に定める品質及び性能を有することの証明となる資料をあらかじめ監督職員に提出して承諾を受ける。 なお、(一社)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」による場合は評価書の写しを監督職員に提出するものとする。																																																																																
⑦ 機材の品質・性能証明	使用する機材がⅢ. 機材による場合は、標準仕様書第1編第1章第4節1.4.2(2)の品質及び性能を有することの証明となる資料の提出を省略することができる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績書等は除く。																																																																																
⑧ 施工図等	提出した施工図等の著作権に限る当該建物に係る使用権は発注者に移譲するものとする。 国土交通省大臣官庁官庁管轄部監修の「工事写真撮影ガイドブック電気設備工事編 平成30年版」によるほか、監督職員の指示による。下記のものを提出する。																																																																																
9 完成写真等	<table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>分類・規格</th><th>撮影箇所</th><th>部数</th><th>電子データの提出</th></tr></thead><tbody><tr><td>工事写真</td><td>カラーサービス判</td><td>各工程毎</td><td>※ 1部 ● 部</td><td>● 要 ● 不要</td></tr><tr><td>完成写真</td><td>カラーサービス判</td><td>監督職員の指示による</td><td>※ 2部 ● 部</td><td>● 要 ● 不要</td></tr></tbody></table>	区分	分類・規格	撮影箇所	部数	電子データの提出	工事写真	カラーサービス判	各工程毎	※ 1部 ● 部	● 要 ● 不要	完成写真	カラーサービス判	監督職員の指示による	※ 2部 ● 部	● 要 ● 不要																																																																	
区分	分類・規格	撮影箇所	部数	電子データの提出																																																																													
工事写真	カラーサービス判	各工程毎	※ 1部 ● 部	● 要 ● 不要																																																																													
完成写真	カラーサービス判	監督職員の指示による	※ 2部 ● 部	● 要 ● 不要																																																																													
10 完成図等	次の図書を工事の完成引渡し時に監督職員に提出する。 <table border="1"><thead><tr><th>区分</th><th>名称</th><th>部数</th></tr></thead><tbody><tr><td>※ 完成図原図</td><td>完成図 ● 原紙 ※ CADデータ ※ PDFデータ 施工図 ● 原紙 ● CADデータ ● PDFデータ</td><td>1部</td></tr><tr><td>※ 完成図2つ折製本</td><td>※ 完成図 ※ 完成図(縮小版)</td><td>※ 2部 ● 部</td></tr><tr><td>※ 完成図書</td><td>● 完成図(縮小版) ※ A4版市販ファイル ● 主要機器図 ● A4版黒紙製本 ※ 試験成績書</td><td>※ 2部 ● 部</td></tr><tr><td>※ 保守用説明書</td><td>● 保守に関する指導案内書 ※ 機器取扱説明書 ※ 主要機器一覧表</td><td>※ 2部 ● 部</td></tr><tr><td>※ 保証書</td><td></td><td>1部</td></tr><tr><td>※ 官公署届出書類</td><td></td><td>1部</td></tr></tbody></table> ● 原図ケース・製本図面の背表紙に「施設コード・部局名称」ラベルを貼り付ける。	区分	名称	部数	※ 完成図原図	完成図 ● 原紙 ※ CADデータ ※ PDFデータ 施工図 ● 原紙 ● CADデータ ● PDFデータ	1部	※ 完成図2つ折製本	※ 完成図 ※ 完成図(縮小版)	※ 2部 ● 部	※ 完成図書	● 完成図(縮小版) ※ A4版市販ファイル ● 主要機器図 ● A4版黒紙製本 ※ 試験成績書	※ 2部 ● 部	※ 保守用説明書	● 保守に関する指導案内書 ※ 機器取扱説明書 ※ 主要機器一覧表	※ 2部 ● 部	※ 保証書		1部	※ 官公署届出書類		1部																																																											
区分	名称	部数																																																																															
※ 完成図原図	完成図 ● 原紙 ※ CADデータ ※ PDFデータ 施工図 ● 原紙 ● CADデータ ● PDFデータ	1部																																																																															
※ 完成図2つ折製本	※ 完成図 ※ 完成図(縮小版)	※ 2部 ● 部																																																																															
※ 完成図書	● 完成図(縮小版) ※ A4版市販ファイル ● 主要機器図 ● A4版黒紙製本 ※ 試験成績書	※ 2部 ● 部																																																																															
※ 保守用説明書	● 保守に関する指導案内書 ※ 機器取扱説明書 ※ 主要機器一覧表	※ 2部 ● 部																																																																															
※ 保証書		1部																																																																															
※ 官公署届出書類		1部																																																																															
11 他工事との取合い	<table border="1"><thead><tr><th colspan="2">他工事との取合い</th><th>電気設備</th><th>機械設備</th><th>建築</th></tr></thead><tbody><tr><td>● コンクリート壁、床、梁貫通部</td><td>補強 スリーブ・箱入</td><td>●</td><td>●</td><td>※</td></tr><tr><td>● 鉄骨造の開口及び補強</td><td></td><td>●</td><td>●</td><td>※</td></tr><tr><td>● 照明器具・幹線の吊りボルト用インサート(くぎ処理共)</td><td></td><td>※</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>● 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地</td><td></td><td>※</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>● 埋込分電盤・端子盤・プルボックスの仮枠及び埋込部分の補強</td><td>仮枠 補強</td><td>※</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>● OAフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強</td><td></td><td>●</td><td>●</td><td>※</td></tr><tr><td>● 埋込形機器取付用の天井、壁の地下材・仕上げ材</td><td>切り込み 補強</td><td>※</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>● 自動閉鎖装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローゼ、フロアヒンジ</td><td></td><td>●</td><td>●</td><td>※</td></tr><tr><td>● 電気室、自家発電機室などの基礎及びビット(蓋を含む)</td><td></td><td>●</td><td>●</td><td>※</td></tr><tr><td>● 機器付属の制御盤及び操作盤から機器までの配線</td><td></td><td>●</td><td>※</td><td>●</td></tr><tr><td>● 機器用コントロールスイッチ(空調機、給湯器等)の取付及び配線</td><td></td><td>●</td><td>※</td><td>●</td></tr><tr><td>● テレビアンテナ</td><td>基礎 アンカーボルト</td><td>●</td><td>●</td><td>※</td></tr><tr><td>● 天井点検口</td><td></td><td>●</td><td>●</td><td>※</td></tr><tr><td>● 自立型制御盤の基礎</td><td></td><td>※</td><td>●</td><td>●</td></tr><tr><td>● 機器類のコンクリート基礎</td><td>屋内・屋外設置 屋上設置</td><td>※</td><td>●</td><td>●</td></tr></tbody></table>	他工事との取合い		電気設備	機械設備	建築	● コンクリート壁、床、梁貫通部	補強 スリーブ・箱入	●	●	※	● 鉄骨造の開口及び補強		●	●	※	● 照明器具・幹線の吊りボルト用インサート(くぎ処理共)		※	●	●	● 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地		※	●	●	● 埋込分電盤・端子盤・プルボックスの仮枠及び埋込部分の補強	仮枠 補強	※	●	●	● OAフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強		●	●	※	● 埋込形機器取付用の天井、壁の地下材・仕上げ材	切り込み 補強	※	●	●	● 自動閉鎖装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローゼ、フロアヒンジ		●	●	※	● 電気室、自家発電機室などの基礎及びビット(蓋を含む)		●	●	※	● 機器付属の制御盤及び操作盤から機器までの配線		●	※	●	● 機器用コントロールスイッチ(空調機、給湯器等)の取付及び配線		●	※	●	● テレビアンテナ	基礎 アンカーボルト	●	●	※	● 天井点検口		●	●	※	● 自立型制御盤の基礎		※	●	●	● 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置 屋上設置	※	●	●
他工事との取合い		電気設備	機械設備	建築																																																																													
● コンクリート壁、床、梁貫通部	補強 スリーブ・箱入	●	●	※																																																																													
● 鉄骨造の開口及び補強		●	●	※																																																																													
● 照明器具・幹線の吊りボルト用インサート(くぎ処理共)		※	●	●																																																																													
● 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地		※	●	●																																																																													
● 埋込分電盤・端子盤・プルボックスの仮枠及び埋込部分の補強	仮枠 補強	※	●	●																																																																													
● OAフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強		●	●	※																																																																													
● 埋込形機器取付用の天井、壁の地下材・仕上げ材	切り込み 補強	※	●	●																																																																													
● 自動閉鎖装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローゼ、フロアヒンジ		●	●	※																																																																													
● 電気室、自家発電機室などの基礎及びビット(蓋を含む)		●	●	※																																																																													
● 機器付属の制御盤及び操作盤から機器までの配線		●	※	●																																																																													
● 機器用コントロールスイッチ(空調機、給湯器等)の取付及び配線		●	※	●																																																																													
● テレビアンテナ	基礎 アンカーボルト	●	●	※																																																																													
● 天井点検口		●	●	※																																																																													
● 自立型制御盤の基礎		※	●	●																																																																													
● 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置 屋上設置	※	●	●																																																																													
12 工事用電力・水・その他	本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。																																																																																
13 表示板	設ける。(寸法等は図面による。建築工事、機械設備工事等と一緒に表示する) ※ 工事表示板 ● お願い表示板																																																																																

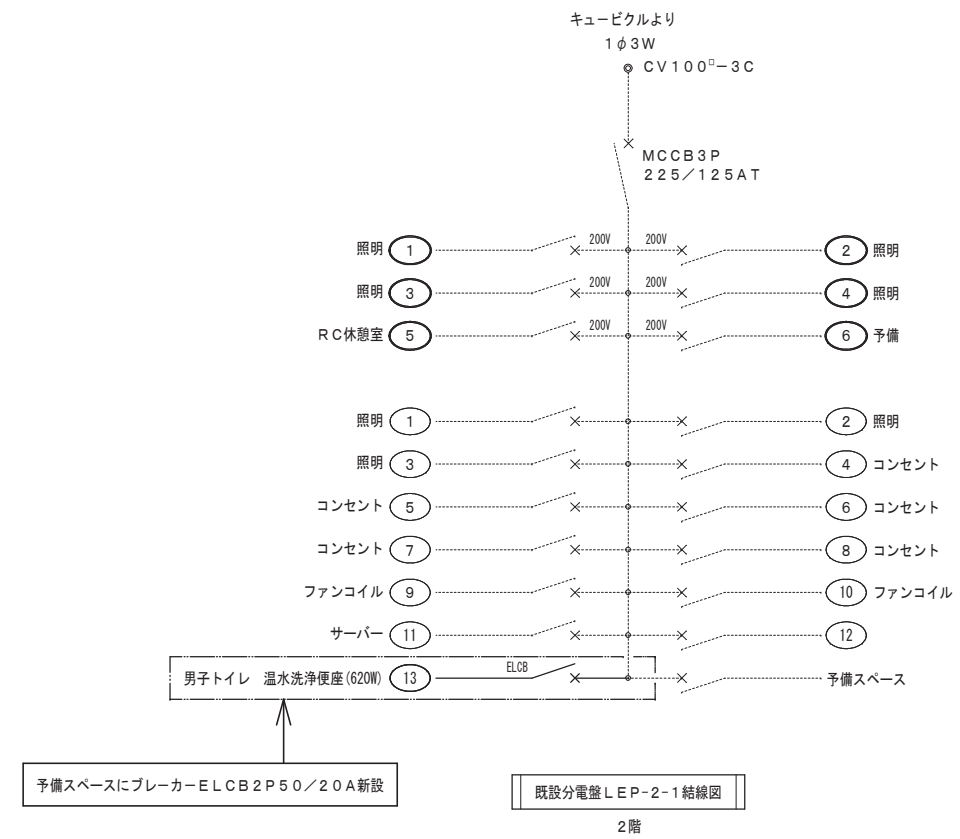
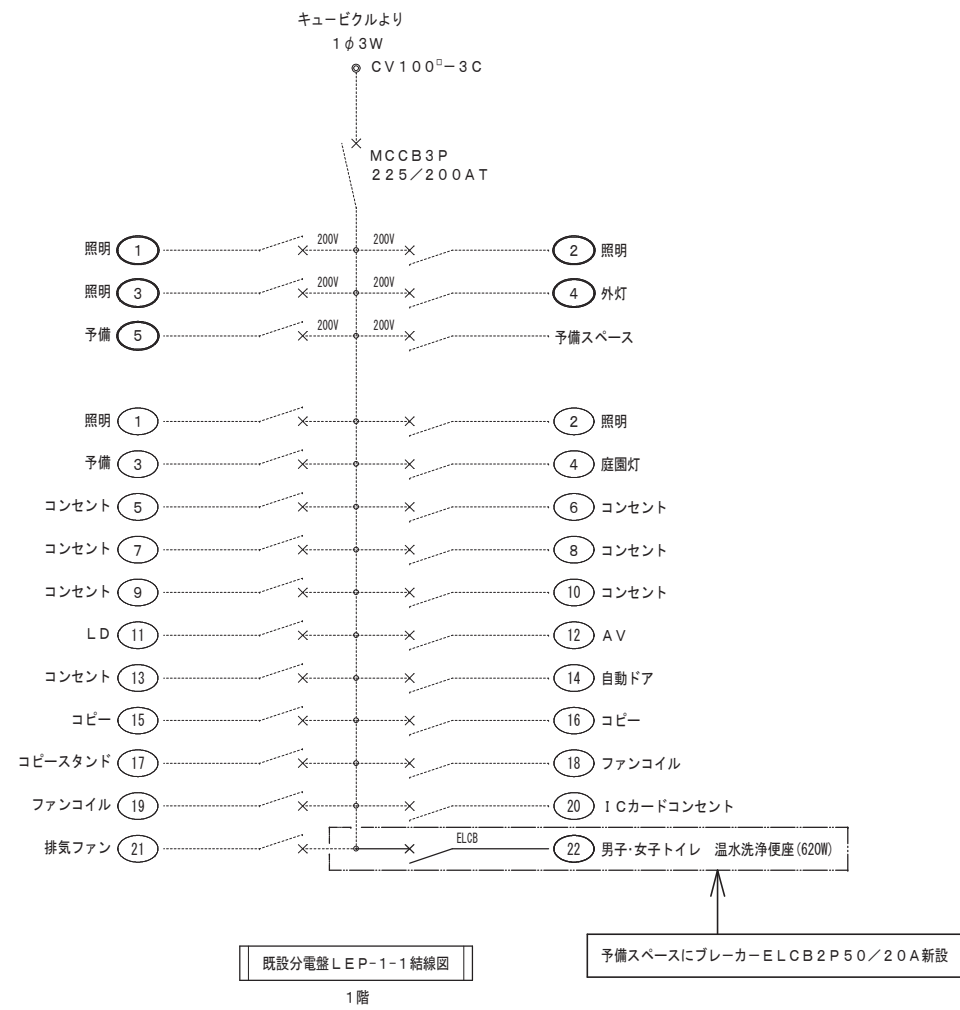
4 足場



15 工 事 用 仮 設 物 16 土 工 事 17 電 線 類 18 電 線 本 数 ・ 管 路 等 19 屋 外 露 出 配 管 の 仕 上 げ 20 露 出 配 管 の 塗 装 ( 付 属 品 含 む ) 21 波 付 硬 質 合 成 樹 脂 管 ( F E P ) 22 フ ラ ッ シ ュ プ レ ー ト の 材 質 23 カ バ ー プ レ ー ト の 表 示 24 ブ ル ボ ッ ク ス の 塗 装 25 耐 震 施 工	構内につくることが ※ できる ● できない	埋め戻し土 ※ 根切土の中の良質土 ● 山砂の類 ( ) ● 真砂土 ( ) 建設発生土の処理 ● 構外に搬出し適切に処理 ※ 構内敷きならし ● 構内の指示する場所に堆積 本工事では環境配慮の観点から、原則としてEMケーブルを使用するものとする。 EM電線類で規格等の定めのないものはハロゲン及び鉛を含まない材料で構成されたものとする。 通信ケーブルでJCS規格にない対数のケーブルはJCS規格に準じたものとする。 盤内配線はEM電線を使用する。ただし、製造者標準品と特記したものは除く。 ハルネスジョイントボックス用OAタップのケーブルはハロゲン及び鉛を含まない材料とする。 分電盤、制御盤、端子盤などの2次側以降の配線経路、電線太さ、電線本数、管径などは監督職員の承諾を受けて変更してもさしつかえない。 屋外露出配管(厚鋼電線管)で塗装を行わない場合は、溶融垂鉛めっき仕上げ[めつき付着量 300g/m <sup>2</sup> 以上]とする。 塗装する部分 ● 屋上 ● 屋側 ● 屋外 ● 廊下 ● 機械室 ● 居室 ( ) ● 波付硬質合成樹脂管(FEP)を使用する場合は不燃又は難燃性とする。 ● 金属製(ステンレス、新金属も含む) ● 樹脂製 シール等を貼付し、用途を表示する。 ステンレス製ブルボックスの塗装 ※ 無(素地仕上) ● 有(指定色仕上) 設備機器の固定は、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。ただし、重量1kN以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合は、この限りではない。 1) 機器の据付け及び取付け 設計用水平地震力、機器重量[kN]に、地域係数と次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。 設計用標準水平震度	30 補修など 31 はつり 32 はつり工事における非破壊検査 33 あと施工アンカー 34 室内空気中の化学物質の濃度測定 35 火災保険等 36 鳥取県公共事業環境配慮指針 37 建築物省エネ法 1 照明器具 2 一般照明の照度測定 3 非常用照明の照度測定 4 照明制御の照度測定等 1 機器への接続 1 大地抵抗率の測定 2 外部雷保護設備接地システム 1 変圧器移動車輪 2 デマンド監視装置 3 盤内照明 1 交流無停電電源装置(UPS) 1 自家発電装置 ● ディーゼル発電装置 ● ガスエンジン発電装置 ● ガスタービン発電装置 ● 熱併給発電装置 ● 燃料電池発電装置 2 太陽光発電装置 3 風力発電装置 1 交換装置 2 保安器用接地 3 壁付電話機との接続 4 回線数 5 電話機 6 電話機への配線 1 マルチサイン装置 2 出退表示装置 3 時刻表示装置 1 プロジェクタ	工事の施工に伴い既存部分を汚染又は損傷した場合は、既成にならし補修する。 既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴あけは、原則としてダイヤモンドカッターによる。 探査方法 ※ 電磁誘導式 ● 放射線透過検査 ● 1) 施工後確認試験 ※ 行わない ● 行う 試験方法 引張試験機による引張試験 確認強度 対象機器ごとのアンカーボルト1本に作用する引抜き力以上 試験箇所数 1施工単位に対し1本以上 対象機器 ● 配電盤 ● 発電装置 ● 直流電源装置 ● 太陽光発電装置 実施する。 工事目的物及び工事材料等工事施工中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加入する。 (保険の加入期限は、工事完成引渡しまで[概ね工期+21日]とする。) ※ 対象工事 ※ 対象工事 1) LEDの光源色は別図面に指定がある場合を除き下記による。 LEDの光源色 ( ※ 昼白色 ● 温白色 ● 電球色 ) 測定結果を監督職員に提出する。(測定箇所等は、監督職員の指示による。) ※ 設置した各部屋2箇所以上 ● 明るさセンサーによる照明制御を行う部屋は照度測定を行い測定表を監督職員に提出する。なお、測定箇所は監督職員の指示による。 照度測定時期 100%点灯時( ※ 夜間 ● 昼間 ) 調光制御点灯時( ※ 夜間 ※ 昼間 ) ※ 電動機などへの接続は本工事とする。 ● 別途工事 ● 工事着手前に大地抵抗率を測定し、測定表及び接地地極略判定記録書を監督職員に提出する。 ● 構造体利用接地極 ● A型接地極 ● B型接地極 75kVA以上に取付。 ● 本工事 ● 別途工事 前・後に設置する。 停電補償時間(分) 方式( ● 常時インバータ給電方式 ● ラインインラクティブ方式 ● 常時商用給電方式 ) 運転時間( h ) 系統連系( ● 高圧連系 ● 高圧受電低圧みなし連系 ● 低圧連系 ● 無 ) 出力( kW) 配電盤外箱( ● 有 ● 無 ) 保安装置( 重故障項目特記 ● 有 ● 無 ) 外部用端子( ● 要 ● 不要 ) 減圧水槽及び初期注水水槽の材質( ● 鋼板製 ● ステンレス鋼板製 ) オイルタンク( ● 地下 ● 屋内 ) 据付: 機械設備工事標準図( ● 施工30、32(タンク室無し) ● 施工31、33(タンク室有り) ) 燃料小出槽 (注): 返油ポンプのあるシステムでフロートスイッチの上限フロートは通過形接点とする。 材質( ● 鋼板製 ● ステンレス製 ) 燃料油等( ● 灯油 ● 軽油 ● 重油 ● 燃料ガス( ) ) 排気系統配管断熱材の厚さ( mm) ばい煙測定口( ● 設ける ● 設けない ) 排気ガスに含まれる窒素酸化物( ) 以下) 運転音( dB以下) 系統連系( ● 高圧連系 ● 高圧受電低圧みなし連系 ● 低圧連系 ● 無 ) 公称最大出力( kW) 耐風速( m/s ) パワーコンディショナ( 相線電圧 V) 定格容量( kW) 自立運転機能( ● 有 ● 無 ) 表示装置( ● 有 ● 無 ) 方式( ※ 液晶 ● ) 系統連系( ● 高圧連系 ● 高圧受電低圧みなし連系 ● 低圧連系 ● 無 ) 定格出力( kW) 局線応答方式( ● 局線中継台方式 ● 分散中継台方式 ● ダイアルイン方式 ● ダイレクトインダイヤル方式 ● ダイレクトインライン方式 ) 停電補償時間(分) ※ 本工事 ● 別途工事 ※ モジュラージャック ● 電話用プレート 内線 / / 回線 局線 / / 回線( 現用/実装/容量 ) ● 一般電話機 台 ● 多機能電話機 台 ● ファクシミリ 台 ● デジタルコードレス電話機 台 ● IP電話機 台 卓上電話機1台につき次のものを見込む。 ● ボタン電話機( ● EM-BTIEE 0.4-2P ● ) ( ※ 15m ● ) ● 内線電話機 ( ● EM-TIEF 0.65-2C ● TIVF 0.65-2C ) ( ※ 15m ● ) ● 多機能電話機( ● EM-BTIEE 0.4-2P ● ) ( ※ 15m ● ) ● IP電話機 ( ● EM-UTP 0.5-4P ● ) ( ※ 15m ● ) イメージスキャナ( ● 設ける ● 設けない ) 制御装置( ● 壁掛形 ● 埋込形 ● 据置形 ) 呼出機能( ● 有 ● 無 ) 方式( ● 発光ダイオード ● 液晶 ● ) 親時計( ● 壁掛形 回線 ● ラック形 回線 ) 太陽電池式屋外時計( 点灯時間 h 点灯保証日数 日 ) 光出力( ● I形 ● II形 ● III形 ) 解像度( ● A形 ● B形 ● C形 ) コントラスト比( ● X形 ● Y形 )	10 声 備 11 誘 導 支 援 12 火 災 報 知 設 備 13 構 内 配 電 線 路 14 構 内 通 信 線 路 15 テ レ ビ 電 波 受 信 障 害 調 査 16 そ の 他 17 電 力 共 通 18 電 19 灯 20 動 力 21 構 内 交 換 設 備 22 電 気 時 計 23 拡 声	1 増 幅 器 形式( ● 卓上形 ● ラック形 ) 定格出力( W) 性能( ● Hi形 ● Lo形 ) ● 増幅器の入出力配線と外部配管(壁ボックス等)の接続はコネクタによる。 1 音 声 誘 導 装 置 検出方式( ● 磁気方式 ● 無線方式 ● 画像認識方式 ) 1 自 動 火 災 報 知 設 備 受信機( ● 型 級 回線(音積型) ● 複合形 ● 単独形 ) 2 自 動 閉 鎖 設 備 ● 防火戸用( ※ ラッチ式 ● 電磁式 ) ● 防煙ダンパー用( ※ 電動復帰 ● 手動復帰 ) ● 防火シャッター用( ※ 別途工事 ● 本工事 ) 3 ガ ス 漏 れ 火 災 警 報 設 備 検知器( ● 天井取付形 ● 壁取付形 ) 1 施 工 方 法 埋設深さ ※ GL-300以上、舗装のある場合は路盤下-300以上とする。 ● GL-600以上( ● 車路 ● 高圧配線 ● 幹線 ● ) 2 地 中 箱 蓋の記号表示は錆型流込み(鳥取県又は鳥取県章、及び用途を記入)とし、ハンドホール内のケーブル支持等はマンホールに準じて行う。アスファルト舗装面に使用するハンドホール及び鉄蓋はアスファルト舗装用とする。 3 高 圧 負 荷 開 閉 器 ● 閉鎖形( ● 耐熱塩形 ● 重耐塩形 ) ● 地絡継電器付( ※ 方向性 ● 無方向性 ) ● 避雷器内蔵 ※ 別制御装置までの制御ケーブルを付属する。 4 高 圧 ケ ー ブ ル の 端 末 部 高圧ケーブルの両端部にシースの縮み対策(熱伸縮テープによるシースずれ止め対策等)を行う。 5 高 圧 ケ ー ブ ル の 屋 外 端 末 処 理 ● 一般形 ● 耐塩形 6 標 識 シ ー ト ※ 高圧 ● 低圧 7 照 明 用 ボ ー ル 照明用ポールには配線用遮断器(トリップ機能なし)又はカットアウトスイッチ(素通しヒューズ)を内蔵する。ただし、ガーデンライトは除く。 1 施 工 方 法 埋設深さ ※ GL-300以上、舗装のある場合は路盤下-300以上とする。 ● GL-600以上( ● ) 2 地 中 箱 蓋の記号表示は錆型流込み(鳥取県又は鳥取県章、及び用途を記入)とし、ハンドホール内のケーブル支持等はマンホールに準じて行う。アスファルト舗装面に使用するハンドホール及び鉄蓋はアスファルト舗装用とする。 3 標 識 シ ー ト ● データ回線 ● 電話 ● CATV ● 1 調 査 仕 様 図面に記載されていない事項は、すべて(一社)日本CATV技術協会の「建築物によるテレビ受信障害調査要領」及び「建築物によるテレビ受信障害調査要領(地上デジタル放送)」の最新版により調査を行い、同協会の技術審査を受けるものとする。 2 テレビ電波受信障害調査時期 ※ 事前 ● 中間 ※ 事後 3 受信する受信波及び地点数 中継局 波: 地点 中継局 波: 地点 4 報 告 書 提 出 部 数 ※ 事前 3部 ● 中間 部 ※ 事後 3部 1 機 器 取 付 高 機器取付高は下記を標準とする。ただし、天井高3m以上の場合及び機器の使用に支障がある場合は監督職員と協議する。 電 力 共 通 電 灯 動 力 構 内 交 換 電 気 時 計 拡 声 名 称 測 点 取 付 高 (mm) 取引用計器 地上~窓中心 1,800~2,000 引込開閉器 地上~中心 1,800~2,200 分電盤・OA盤・実験盤 床上~中心 1,500(上端1,900以下) スイッチ 1,300 " (多機能トイレ) 1,100 コンセント(一般) 300 " (和室) 150 " (台) 台上~中心 150 " (土間) 床上~中心 800~1,300 " (車椅子用) 900 ブラケット(一般) 2,100~2,300 " (踊場) 2,000~2,500 " (鏡上) 鏡上端~中心 150 壁掛形制御盤 床上~中心 1,500(上端1,900以下) 手元開閉器 1,500 操作スイッチ 1,300 端子盤 床上~下端 300 保安器箱 天井下~下端 200 壁付アウトレット 床上~中心 300 " (和室) 150 壁掛形親時計 床上~中心 1,500(上端1,900以下) 子時計 天井高×0.9 壁掛形スピーカー 床上~中心 天井高×0.9 壁付アツテネータ 1,300 2 工 事 の た め 電 線 及 び 配 電 線 の 近 く で 作 業 す る と き は 、 事 前 に 中 国 電 力 に 連 絡 し 、 事 故 防 止 に 努 め る も の と す る 。 Ⅲ. 機 材 工事に使用する機器及び材料は、図面に仕様等が明記してあるものを除き、原則として標準仕様書に規定するもの及び(一社)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」による。 ただし、壁盤は上記によるほか以下の製造業者とする。 勝 永 井 電 機 工 業 所 南 平 木 電 機 産 業 小 林 制 電 機 南 洲 富 士 オ ー ト モ ー シ ョ ン 勝 英 産 業 機 南 増 岡 電 機 製 作 所	27 屋 上 、 屋 側 の 支 持 金 物 等 28 結 露 防 止 29 ア ス ベ ス ト 含 有 建 材 の 処 理 26 接 地 種 類 接地の種類 記号 接地抵抗値 接 地 極 ● 共 同 接 地 E <sub>A</sub> E <sub>D</sub> 10Ω以下 EB×3連-2組 ● 共 同 接 地 E <sub>A</sub> E <sub>C</sub> E <sub>D</sub> 10Ω以下 EB×3連-2組 ● A 種 E <sub>A</sub> 10Ω以下 EB×3連-2組 ● B 種 E <sub>B</sub> Ω以下 EB×2連-2組 ● C 種 E <sub>C</sub> 10Ω以下 EB×3連-2組 ● D 種 E <sub>D</sub> 100Ω以下 EB×1 ● 高 圧 避 雷 器 E <sub>LH</sub> 10Ω以下 EB×3連-2組 ● 交 換 機 用 E <sub>t</sub> Ω以下 EB×3連-1組 ● 通 信 用 E <sub>At</sub> 10Ω以下 EB×3連-2組 ● 通 信 用 E <sub>Dt</sub> 及 び E <sub>Da</sub> 100Ω以下 EB×1 ● 電 話 引 込 口 の 保 安 器 用 E <sub>Lt</sub> 100Ω以下 EB×1 ● 測 定 用 E <sub>o</sub> - EB×1 (連結の場合、EBはD=14 L=1500 または W=40 L=1200とする) (E <sub>o</sub> , E <sub>o1</sub> , E <sub>o2</sub> , E <sub>o3</sub> , E <sub>o4</sub> の場合、EBはD=10 L=1000 または W=30 L=900 以上とする) (その他単独の場合、EBはD=14 L=1500 または W=40 L=1200とする) ステンレス製または鋼材に溶融亜鉛メッキを施したものとする。 外気に面する壁、スラブ等で打ちこみとなる位置ボックスは保温、結露防止処理を行う。 公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 9章 環境配慮改修工事 1節 石綿含有建材の除去工事による。 処理を行うアスベスト含有建材の仕様等 建材の内容・箇所 仕様等 処理を行う範囲 ※ 県有施設の石綿除去等に係る施工業者の登録制度による登録業者を活用するものとする。 ※ 官公署その他への手続きは、同仕様書によるほか、労働安全衛生法、大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、石綿障害予防規則、鳥取県石綿健康被害防止条例等の関係法令に基づいて行う。 ● 施工調査(分析によるアスベスト含有建材の調査)を行う。 分析方法はJISA1481「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。 ● アスベスト粉じん濃度測定を行う。 (測定時期: 測定場所: 測定点: ) ● 洗浄設備(洗眼、うがいの設備)及び更衣設備を設ける。 ● 作業場の養生として、処理場所をプラスチックシート等で囲い、外部への粉じん飛散を防止する。 対象箇所( )
	有限会社 亀山設計 鳥取県米子市両三柳724番地11 一級建築士事務所 登録第05-1356号	CHECK DRAWING 縮尺 A2: -- 設計年月日 R6.02	工事名称 水産試験場トイレ洋式化改修工事 図面名称 電気設備工事特記仕様書(2)	図面番号 E-2/4			







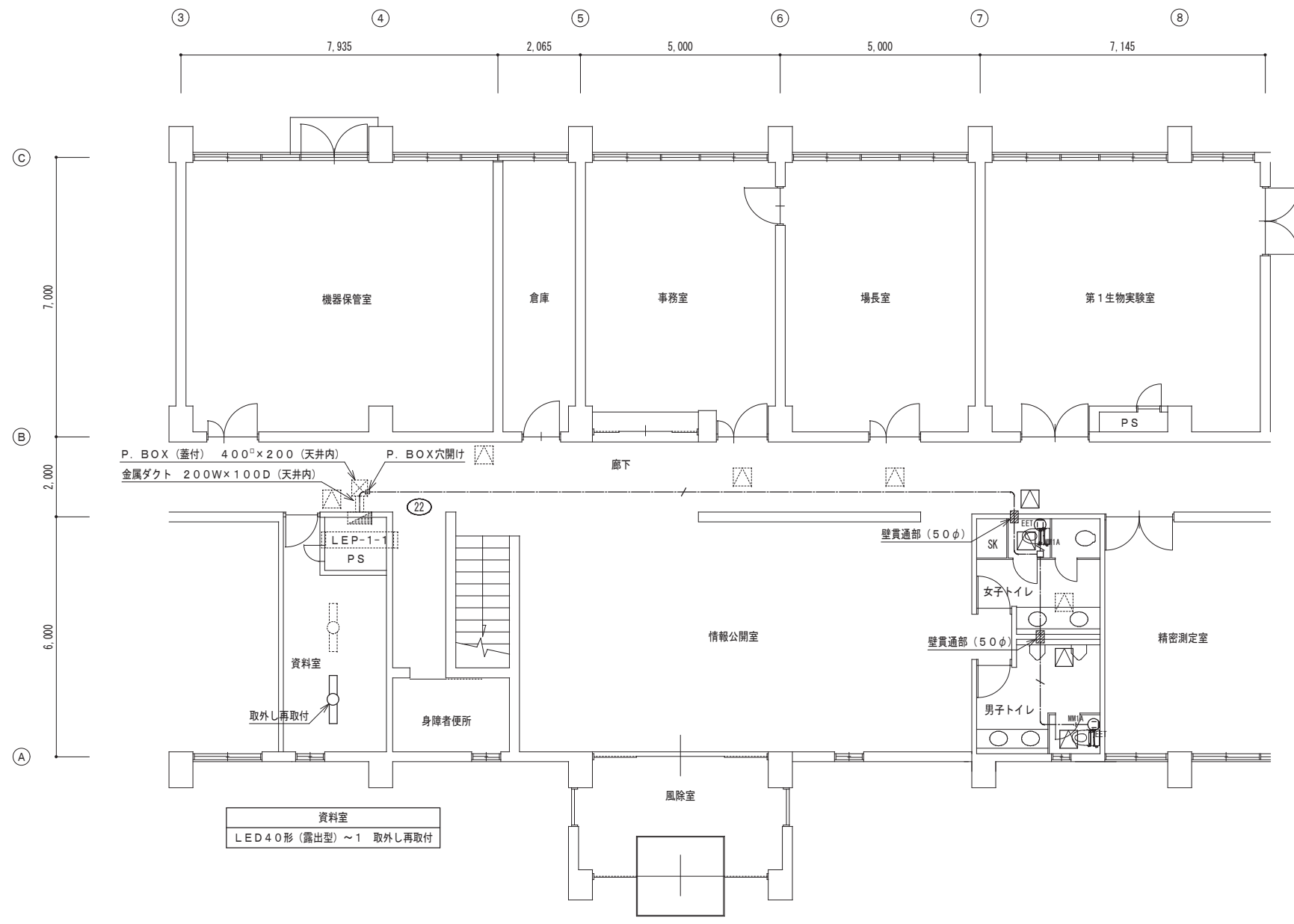


凡例

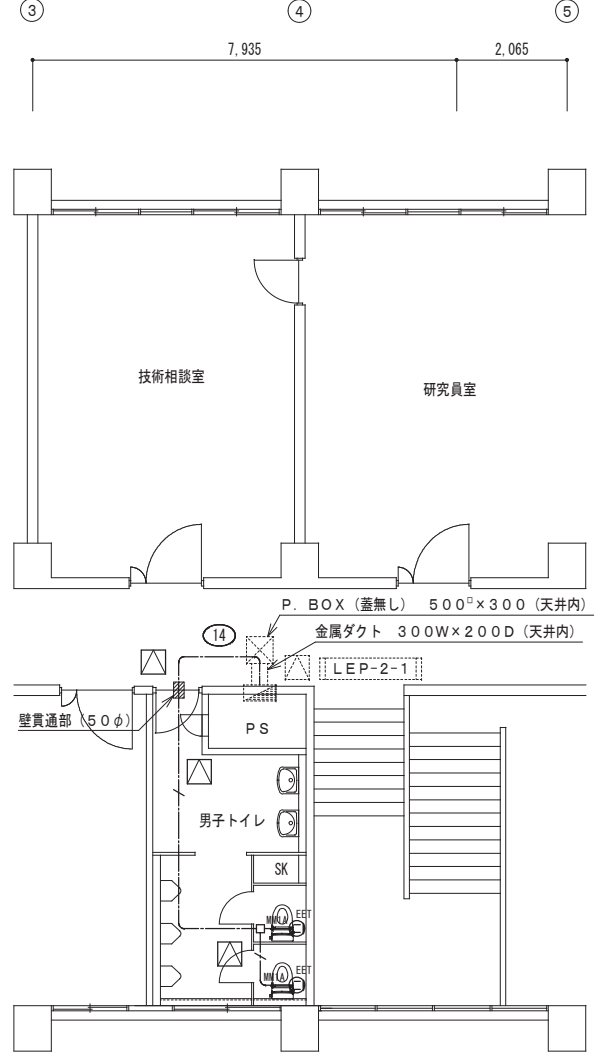
記号	名称	仕様
⊙ <sub>EET</sub>	埋込コンセント	2P15A(E)×1. ET 金属プレート
□	アウトレットボックス	中四角 浅型 樹脂製
△	天井点検口	450×450
△	既設天井点検口	450×450

特記

1. 図中記入なき配管・配線は、下記による。  
EM-EEF2. 0-3C (1Cアース線) 天井内
2. 図中大線部分の配管・配線・器具等は、本工事部分を表す。
3. 図中細線点線部分は既設を表し、既存のままとする。
4. 図中  $\overline{\text{MMA}}$  印は、立上・立下部をメタルモールA型にて保護すること。
5. 既設壁等の貫通は、鉄筋位置を調査の上行うこと。
6. 既設改修工事のため、既設設備を事前確認の上施工を行うこと。
7. 既存施設を使用しながらの工事であるため、騒音・粉塵等に十分配慮し、施設運営に支障がある施工を行う際は、日程を施設担当者と調整の上行うこと。
8. 天井点検口の新設に際し、天井材のアスベスト含有は無いものと見なしているが、型番等により確認すること。  
不明な場合は対応について監督員と協議すること。



1階平面図 S=1:100 (改修後)



2階平面図 S=1:100 (改修後)



# 賀祥ダム管理事務所トイレ洋式化改修工事

図面リスト		
図面番号	図面名称	縮尺
M- 0 / 5	表紙、図面リスト	--
1 / 5	機械設備工事特記仕様書(1)	--
2 / 5	機械設備工事特記仕様書(2)	--
3 / 5	配置図、附近見取図、1・2階平面図(ケーブルラン)	1:200
4 / 5	衛生設備 器具表、1階平面詳細図(改修後・撤去)	1:50
5 / 5	衛生設備 器具表、2階平面詳細図(改修後・撤去)	1:50
E- 1 / 3	電気設備工事特記仕様書(1)	--
2 / 3	電気設備工事特記仕様書(2)	--
3 / 3	幹線設備 分電盤結線図、電灯・コンセント設備 1・2階平面詳細図(改修後)	1:50





# 機械設備工事特記仕様書

## I. 工事概要

1 工事場所 南部町下中谷

## 2 建物概要

番号	建物名称	構造	階数	建築基準法による延べ面積 (㎡)	消防法施行令別表第一の区分	備考
1	管理事務所棟	RC	2	311.08	( 15 ) 項	
2					( ) 項	
3					( ) 項	
4					( ) 項	
5					( ) 項	

## 3 工事種目 (印の付いたものが対象工事種目)

工事種目	番号	1	2	3	4	5	屋外	備考
● 空気調和設備								
● 冷暖房設備								
● 換気設備								
● 排煙設備								
● 自動制御設備								
● 衛生器具設備								
○ 給水設備								
○ 排水設備								
● 給湯設備								
● ガス設備								
● 浄化槽設備								
● 消火設備								
● さく井設備								
● 電気設備工事								
● 建築工事								
●								

## 4 設備概要 (本工事における工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。)

項目	設備概要
● 空気調和設備	● 単一ダクト方式 ● 各階ユニット方式 ● ダクト併用ファンコイルユニット方式
● 冷暖房設備	● ファンコイルユニット方式 ● パッケージ方式
● 暖房設備	● 温水暖房 ● 蒸気暖房 ● 温風暖房 ( ● 局所式 ● 中央式 ) ● 床暖房
● 熱源	● 電気 ● 灯油 ● A重油 ● ガス ● バイオマス
● 主要熱源機器	● 鋼製ボイラー ● 鋳鉄製ボイラー ● 真空式温水発生機 ● 無圧式温水発生器 ● テリングユニット ● スクリュー冷凍機 ● 遠心冷凍機 ● 吸収式冷凍機 ● 直置き吸収式冷温水機 ● 小形吸収式冷温水機ユニット ● バイオマスボイラー ● ルームエアコン
● ヒートポンプパッケージエアコン ( マルチタイプ )	● 有 ● 無 )
● 温風暖房機	● FF暖房機 ● その他 ( )
換気設備	● 第一種 ● 第二種 ● 第三種
排煙設備	● 機械排煙 ( 適用法規 ● 建基法 ● 消防法 )
自動制御設備	● 電気式 ● 電子式 ● デジタル式
○ 給水設備	給水方式 ● 水道直結方式 ● 高置水槽方式 ● ポンプ直送方式 ● 増圧給水方式 水源 ● 水道水 ● 井水
○ 排水設備	排水方式 ● 自然流下 ● ポンプ排水 ( ● 汚水 ● 雑排水 ● 雨水 ) 放流先 ● 汚水 ● 公共下水道 ● 浄化槽 ● 側溝 ● 雑排水 ● 公共下水道 ● 浄化槽 ● 側溝 ● 雨水 ● 公共下水道 ● 側溝 ● 河川 浄化槽 ● 処理方式 ● 小規模合併 ● 合併 ● 処理水放流先 ● 排水路 ● 側溝 ● 河川
● 給湯設備	● 局所式 ( ● ガス ● 油 ● 電気 ) ● 中央式 ( ● 油 ● ガス ● 電気 )
● 消火設備	● 屋内消火栓 ● 屋外消火栓 ● 連結送水管 ● 連結散水 ● スプリンクラー ● 泡消火 ● 粉末消火装置 ● 不活性ガス消火 ( ● 窒素 ● 窒素系 ) ● ハロゲン化物消火
● ガス設備	● 都市ガス ( MJ/Nm <sup>3</sup> ) ● 液化石油ガス

## II. 特記仕様

### 1 一般事項

- 現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の標準仕様書等のうち、
  - 印の付いたものによる。
  - 公共建築工事標準仕様書 (機械設備工事編) (令和4年版) (以下「標準仕様書」という。)
  - 公共建築改修工事標準仕様書 (機械設備工事編) (令和4年版) (以下「改修標準仕様書」という。)
  - 公共建築設備工事標準図 (機械設備工事編) (令和4年版) (以下「標準図」という。)
- 国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「機械設備工事監理指針 (令和4年版)」 (以下「監理指針」という。) を適用する。
- 電気設備工事及び建築工事を本工事を含む場合、電気設備工事及び建築工事はそれぞれの標準仕様書等及び監理指針を適用する。

### 2 特記事項

- 項目は番号に ○ 印の付いたものを適用する。
- 特記事項のうち選択する事項は ● 印の付いたものを適用する。
  - 印の付かない場合は、※ 印の付いたものを適用する。● 印と ※ 印の付いた場合は両方を適用する。
- 一般共通事項のうち ( ) 項は、● 建築 ● 電気設備 工事特記仕様書による。

項目	特記事項
1 官公署その他への手続	工事の施工に伴い必要な官公署その他への手続き、検査並びにその費用は、請負者の負担とする。
2 電気保安技術者	工事現場における電気保安技術者は、鳥取県総務部営繕工事自家用電気工作物保安規程第5条に定める工事担当技術者の職務を補佐し、当該工事の工事期間中自家用電気工作物の保安の業務を行うものとする。なお、電気保安技術者の資格は標準仕様書第1編第1章第3節 1. 3. 2によるものとし、一般用電気工作物にかかる工事についても、自家用電気工作物の場合と同様の業務を行うものとする。
3 工事安全計画書等	建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に工事安全計画書を作成し監督職員に提出する。
4 発生材の分析及び処理	引渡しを要するもの ※ 無し ● 有り ( ) 引渡しを要するもの以外は、構外搬出適切処理とする。 特別管理産業廃棄物 ※ 無し ● 有り ● 本工事において調査を行う ( ● 塵石綿 (配管用保温材) ● PCB使用機器 ● ) アスベスト含有設備資機材 (ガスケット、パッキン、たわみ継手等の石綿含有廃棄物) は関係法令に従い適切に処理を行う。 PCB使用機器は関係法令等に従い適切に処理する。 撤去予定機器の微量PCB分析 ※ 無し ● 有り 再生資源化を図るもの ※ 無し ● 有り ( ● コンクリート塊 ● アスファルトコンクリート塊 ● )
5 機材等	本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等以上の品質及び性能を有するものとする。ただし、これらと同等以上のものとする場合は、設計図書に定める品質及び性能を有するものとの証明となる資料をあらかじめ監督職員に提出して承諾を受ける。なお、(一社)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業 設備機材等評価名簿」による場合は評価書の写しを監督職員に提出するものとする。
6 機材の品質・性能証明	JIS等のマーク及び評価書のある機材を使用する場合は、標準仕様書第1編第1章第4節 1. 4. 2 (3)の品質及び性能を有することの性能を有することの証明となる資料の提出を省略できる。ただし、標準仕様書に規定される製作図、試験成績等は除く。
7 機材の承諾図	機械設備工事機材承諾図様式 (令和4年版) によるほか、監督職員の指示による。
8 図形等の表示	機器類は、図示する形状、配管などの取出し位置及び製造品番により、特定製造者の製品を指示、限定しない。
9 電気容量及び機器表示	機器類の能力、容量等は、原則として表示された値以上とする。
10 技能士の適用	電動機出力、燃料消費量等は、原則として図面に記載されている値以下とする。 下記により適用する技能士は、適用する工事作業中、1名以上の者が自ら作業をするとともに他の技能者に対して施工品質の向上を図るための作業指導を行う。また、そのものが技能士であることが分かる名札 (下図参考) を常時着用する。 ● 配管 ( ● 1級 ● 2級 ) ● 熱絶縁施工 ( ● 1級 ● 2級 ) ● 冷凍空調和機器施工 ( ● 1級 ● 2級 ) ● 建築板金 ( ● 1級 ● 2級 )
11 施工図等	提出した施工図等の著作権に係わる当該建物に限る使用権は発注者に移譲するものとする。
12 完成写真等	国土交通省大臣官房官庁営繕部監修の「工事写真撮影ガイドブック機械設備工事編 平成30年版」によるほか、監督職員の指示による。下記のものを出す。

区分	分類・規格	撮影箇所	部数	電子データの提出
工事写真	カラーサービス判	各工種工程毎	※ 1部 ● 部	● 要 ● 不要
完成写真	カラーサービス判	監督職員の指示による	※ 2部 ● 部	● 要 ● 不要

## 一般共通事項

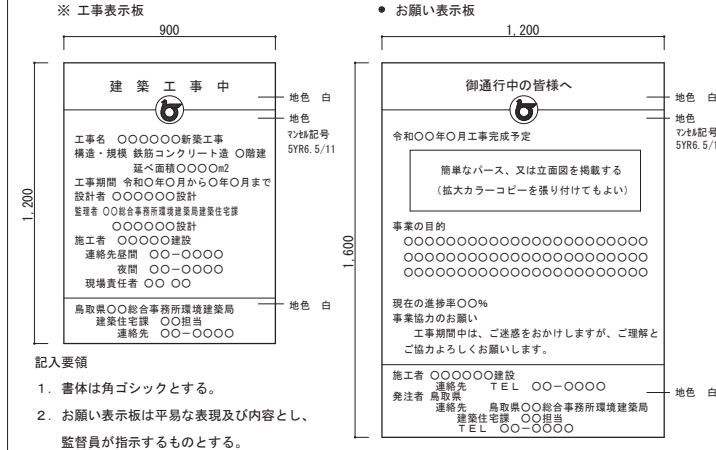
- 完成図等
- 14 他工事との取合
- 15 工事用水・電力・その他
- 16 表示板
- 17 足場
- 18 工事用仮設物
- 19 土工
- 20 保温工事

区分	名称	部数
※ 完成図原図	完成図 ● 原紙 ● CADデータ ● PDFデータ 施工図 ● 原紙 ● CADデータ ● PDFデータ	1部
※ 完成図 2つ折製本	● 完成図 ● 完成図 (縮小版) ● 施工図	※ 2部 ● 部
※ 完成図書 ● A4版市販ファイル ● A4版黒表紙製本	● 完成図 (縮小版) ● 主要機器図 ● 試験成績書	※ 2部 ● 部
※ 保守用説明書 (A4版ファイル)	※ 保守に関する指導案内書 ※ 機器取扱説明書 ※ 主要機器一覧表	※ 2部 ● 部
※ 保証書		1部
※ 官公署の届出書類		1部

● 原図ケース・製本図面の背表紙に「施設コード・部局名称」ラベルを貼り付ける。

他工事との取合い		建築	電気設備	機械設備
● コンクリート壁、床、梁貫通部	スリーブ・箱入 補強	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 鉄骨造の開口及び補強		※ ● ●	● ● ●	● ● ●
● 照明器具・幹線の吊りボルト用インサート (くぎ処理共)		● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 軽量鉄骨壁のボックス取付用下地		● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 埋込分盤・端子盤・プルボックスの仮枠及び埋込部分の補強	仮枠 補強	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● OAフロア・フリーアクセスフロアの切込み及び補強		※ ● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 埋込形機器取付用の天井・壁の切込加工及び下地の補強	切り込み 補強	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 自動開閉装置を取付ける防火戸の切込み、補強及びドアクローザ、フロアヒンジ		※ ● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 電気室、自家発電室などの基礎及びビット (蓋を含む)		※ ● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 天井点検口		※ ● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 機器類のコンクリート基礎	屋内・屋外設置 屋上設置	● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 機器付属の制御盤及び操作盤から機器までの配線		● ● ●	● ● ●	● ● ●
● 機器用コントロールスイッチ (空調機、給湯器等) の取付及び配線		● ● ●	● ● ●	● ● ●

本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。  
設ける。(寸法等は図面による。建築工事、電気設備工事等と一緒に表示する。)



- 足場
- 18 工事用仮設物
- 19 土工
- 20 保温工事



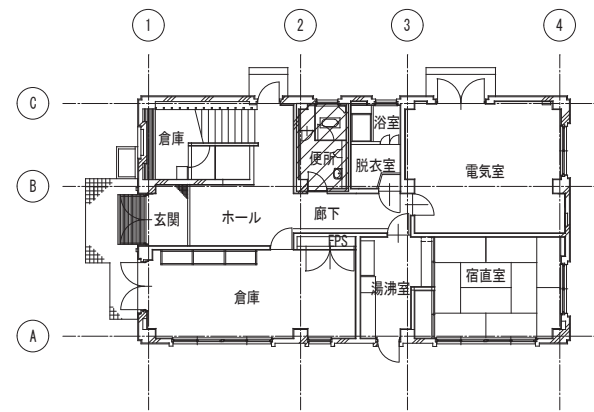
<p>一般共通事項</p> <p>21 鋼管類の防食処置</p> <p>22 絶縁継手</p> <p>23 防振継手</p> <p>24 伸縮管継手</p> <p>25 塗装</p> <p>26 ステンレス鋼管の接合方法</p> <p>27 溶接配管の検査</p> <p>28 埋設表示</p> <p>29 支持金物・固定金具</p> <p>30 総合試運転調整</p> <p>31 アスベスト含有建材の処理</p> <p>32 補修など</p> <p>33 はつり</p> <p>34 はつり工事における非破壊検査</p> <p>35 室内空気中の化学物質の濃度測定</p> <p>36 火災保険等</p> <p>37 グリーン購入</p> <p>38 鳥取県公共工事環境配慮指針</p> <p>39 建築物省エネ法</p> <p>40 耐震施工</p>	<p>地中埋設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ベトロラタム系</li> <li>ブテルゴム系</li> <li>熱収縮チューブ及びシート</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>標準図(施工3)</li> <li>(1)絶縁フランジ</li> <li>(2)絶縁シート</li> <li>(3)絶縁スリーブ</li> <li>(4)絶縁ユニオン</li> </ul> <p>※合成ゴム製(球形)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ポリテトラフルオロエチレン製</li> <li>ペローズ形(ステンレス製)</li> </ul> <p>※ペローズ形</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>スリーブ形</li> </ul> <p>各種機材のうち、下記の部分は塗装しない。(さび止め塗装は除く。)</p> <p>(ア)埋設されるもの(ただし、防食塗装部分を除く)</p> <p>(イ)垂鉛めっき以外のめっき仕上げ面</p> <p>(ウ)垂鉛めっきされたもので、常時隠べいされる部分</p> <p>(エ)垂鉛めっきされた金属電線管、鋼製架台及び支持金物類</p> <p>(オ)樹脂コーティング等をしたもので、常時隠べいされる部分</p> <p>(カ)カラー亜鉛鉄板面</p> <p>(キ)アルミ、ステンレス、銅、溶融アルミニウム-亜鉛鉄板面、合成樹脂製等、特に塗装の必要を認められない面</p> <p>(ク)特殊な意匠的表面仕上げ処理をした面</p> <p>(ケ)主・各階機械室内等及び電気室内の垂鉛めっきされた露出ダクト及び露出配管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>上記及び標準仕様書によらず塗装を施す部分・箇所(保温を行わない露出鋼管外面)</li> </ul> <p>呼び径60以下以下の継手は、SAS322を満足するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ガス配管</li> <li>冷温水配管</li> <li>冷却水配管</li> </ul> <p>非破壊検査の適用(放射線透過検査、浸透探傷検査又は磁粉探傷検査)</p> <p>採取率(標準仕様書による%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地中埋設標を明示する箇所に設ける。</li> <li>埋設表示用テープを埋設する。(ガス管、屋外給水管)</li> </ul> <p>ポンプ、屋外設置機器及びピット内に使用するアンカーボルト、ナットはSUS304製とする。</p> <p>屋外及びピット内の配管、ダクトに使用する支持金物等はステンレス製または溶融亜鉛めっき仕上げとする。</p> <p>下記事項の総合調整を行い、測定結果を監督職員に提出する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>温度</li> <li>湿度</li> <li>風量</li> <li>騒音</li> <li>水量</li> <li>浄化槽放流水質</li> <li>風速</li> <li>じんあい</li> <li>飲料水水质</li> <li>一般飲料水適否検査</li> <li>その他水质等(雑用水、空調用流体)</li> </ul> <p>公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) 9章 環境配慮改修工事 1節 石綿含有建材の除去工事による。処理を行うアスベスト含有建材の仕様等</p> <table border="1"> <tr> <th>建材の内容・箇所</th> <th>仕様等</th> <th>処理を行う範囲</th> </tr> <tr> <td>アスファルト防水</td> <td></td> <td>M-5 参照</td> </tr> </table> <p>※ 県有施設の石綿除去等に係る施工業者の登録制度による登録を受けている業者を活用するものとする。</p> <p>※ 官公署その他への手続きは、同仕様書ほか、労働安全衛生法、大気汚染防止法、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、石綿障害予防規則、鳥取県石綿健康被害防止条例等の関係法令に基づいて行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>施工調査(分析によるアスベスト含有建材の調査)を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>分析方法はJISA1481「建材製品中のアスベスト含有率測定方法」による。</li> </ul> </li> <li>アスベスト粉じん濃度測定を行う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>測定時期:</li> <li>測定場所:</li> <li>測定点:</li> </ul> </li> <li>洗浄設備(洗眼、うがいの設備)及び更衣設備等を設ける。</li> <li>作業場の養生として、処理場所をプラスチックシート等で囲い、外部への粉じん飛散を防止する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>対象箇所( )</li> </ul> </li> </ul> <p>工事の施工に伴い既成部分を汚染又は損傷した場合は、既成にならい補修する。</p> <p>既存のコンクリート床、壁などの配管貫通部の穴開けは、原則としてダイヤモンドカッターによる。</p> <p>探査方法 ※電磁誘導式 ●放射線透過検査</p> <p>実施する。</p> <p>工事目的物及び工事材料等工事施工中の事故に伴う損害を補てんするため火災保険等に加入する。(保険の加入期限は、工事完成引渡しまで[概ね工期+21日]とする。)</p> <p>グリーン購入は次のものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空調用機器(7.5馬力未満)</li> <li>衛生器具</li> <li>断熱材</li> <li>配管材(再生硬質ポリ塩化ビニル管)</li> <li>その他</li> </ul> <p>対象工事</p> <p>対象工事</p> <p>設備機器の固定は、次に示す設計用地震力に耐える方法とする。ただし、重量1kN以下の一般機器について、製造者の指定する固定方法を採用する場合は、この限りではない。</p> <p>(1) 機器の据付け及び取付け</p> <p>設計用水平地震力は、機器の重量(自由表面を有する水槽その他の貯槽にあっては有効質量)[kN]に、地域係数と次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2">設計用標準水平震度</th> <th colspan="2">● 特定の施設</th> <th colspan="2">● 一般の施設</th> </tr> <tr> <th>設置場所</th> <th>機器種別</th> <th>● 重要機器</th> <th>● 一般機器</th> <th>● 重要機器</th> <th>● 一般機器</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">上層階 屋上、塔屋</td> <td>機器</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>防振設置機器</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> </tr> <tr> <td>水槽類</td> <td>2.0</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">中間階</td> <td>機器</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>防振設置機器</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> </tr> <tr> <td>水槽類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">地階・1階</td> <td>機器</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> <td>0.6</td> <td>0.4</td> </tr> <tr> <td>防振設置機器</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> <tr> <td>水槽類</td> <td>1.5</td> <td>1.0</td> <td>1.0</td> <td>0.6</td> </tr> </table> <p>上層階の定義 2～6階建:最上階、7～9階建:上層2階、10～12階建:上層3階、13階建以上:上層4階</p> <p>中間階の定義 地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの</p> <p>重要機器 ●換気機器 ●空調機器 ●熱源機器 ●防炎機器 ●監視制御設備 ●危険物貯蔵装置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>火を使用する設備 ●避難経路上に設置する機器 ●水槽類(燃料小出槽を含む)</li> <li>( )</li> </ul> <p>(2) 設計用鉛直地震力は設計用水平地震力の1/2とし、水平地震力と同時に働くものとする。</p> <p>(3) 設備機器の耐震支持及びアンカーボルトの許容耐力と選定については、「建築設備耐震設計・施工指針2014年版」(一財)日本建築センター)を参考にする。</p>	建材の内容・箇所	仕様等	処理を行う範囲	アスファルト防水		M-5 参照	設計用標準水平震度		● 特定の施設		● 一般の施設		設置場所	機器種別	● 重要機器	● 一般機器	● 重要機器	● 一般機器	上層階 屋上、塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0	防振設置機器	2.0	2.0	2.0	1.5	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0	中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6	防振設置機器	1.5	1.5	1.5	1.0	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6	地階・1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4	防振設置機器	1.0	1.0	1.0	0.6	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6	<p>1 空気調和設備</p> <p>2 冷暖房設備</p> <p>3 換気設備</p> <p>15 吹出口・吸込口</p> <p>16 チャンパー等</p> <p>17 消音内貼り</p> <p>18 瞬間流量計及び流量測定口</p> <p>19 定風量・変風量ユニット</p> <p>20 温度計</p> <p>21 冷温水管の空気抜き</p> <p>22 空調機用トラップ</p> <p>23 銅板製煙道</p> <p>24 オイルサーピスタック</p> <p>25 地下オイルタンク</p> <p>26 油面制御装置</p> <p>27 フィルター等付属品</p> <p>28 パッケージ空調機の能力表示</p> <p>29 防振吊り及び支持金物</p> <p>4 排煙設備</p> <p>5 自動制御設備</p>	<p>1 設計用温湿度条件</p> <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">外気条件</th> <th colspan="4">室内(調整目標値)</th> </tr> <tr> <th colspan="2">一般</th> <th colspan="2">( )</th> </tr> <tr> <th rowspan="2">温度 (DB)</th> <th rowspan="2">湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> <th>温度 (DB)</th> <th>湿度 (RH)</th> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>℃</td> <td>%</td> <td>%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>SGP(白)</li> <li>SGP-V A</li> <li>SGP-P A</li> </ul> <p>※SGP(白)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>SGP-HVA</li> <li>ステンレス鋼管(SUS304)</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>架橋ポリエチレン管(ファンコイル機器接続部に限る)</li> <li>ポリブテン管(ファンコイル機器接続部に限る)</li> </ul> <p>※SGP(白)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ステンレス鋼管(SUS304)</li> </ul> <p>※SGP(黒)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>STPG370-Sch40(黒)</li> <li>ステンレス鋼管(SUS304)</li> </ul> <p>一般配管 ※SGP(黒) 地中配管 ※合成樹脂被覆鋼管</p> <p>※断熱材被覆鋼管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ステンレス鋼管 ●SGP-V A ●</li> <li>SGP(白) ●VP ●カラーVP</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>5K ●10K</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>流量調整弁 ●定流量弁(ダイヤフラム式流量可変式 ●カートリッジオリフィス形)を取付ける。</li> </ul> <p>(ア)防煙ダンパー ※遠隔復帰式 ●電気式</p> <p>(イ)ピストンダンパー ※遠隔復帰式 ●</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>低圧ダクト ●高圧1ダクト ●高圧2ダクト</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>長方形ダクト ●コーナーボルト工法(共板工法(動作用電圧は電機仕様の規定値を0.7A以下とする。)(長辺150mmを超えるものはアングルフランジ工法とする。))</li> <li>アングルフランジ工法</li> <li>防火区画を貫通するダクトは、その貫通する部分の前後150mmを1.6mm厚鋼板とする。</li> </ul> <p>ボックス ※亜鉛鉄板製 ●グラスウール製</p> <p>シーリングディフューザーの接続は、標準図(施工49)を参考とする。</p> <p>接続するダクトの施工が困難な場合はフレキシブルダクトを使用してもよい。</p> <p>線状吹出口には、(長さ+100)×300×300Hの接続チャンパーを設ける。</p> <p>外壁に面するガラリにチャンパー等を設ける場合には、雨水等を自然に排出できるよう勾配をつける。</p> <p>吹出口接続チャンパー及び図示したダクト並びにチャンパー類に内貼する。内貼りチャンパー類の寸法は、外法寸法とする。</p> <p>吹出口接続チャンパー以外の内貼りしたチャンパーにはは点検口(原則400×600)を取付ける。</p> <p>形式はピトー管式(コック付)とする。 ●着脱式 ●固定式</p> <p>下記の箇所、若しくは図示により取付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>冷凍機類の冷水出口 ●瞬間流量計 ●測定用タッピング</li> <li>冷凍機類の冷却水出口 ●瞬間流量計 ●測定用タッピング</li> <li>ポイラー又は熱交換器の温水出口 ●瞬間流量計 ●測定用タッピング</li> <li>冷温水ヘッダーの各送水管 ●瞬間流量計 ●測定用タッピング</li> <li>ユニット形空気調和機の冷温水入口 ●瞬間流量計 ●測定用タッピング</li> <li>メカニカル形 ●風速センサー形</li> </ul> <p>機器付属以外の温度計 ※工業用バイメタル式 ●ガード付L形温度計</p> <p>空気溜りを生ずると思われる配管箇所には、必要に応じて操作の容易な位置に空気抜き弁装置を設ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>※手動 ●自動</li> </ul> <p>自動空気抜き弁装置は標準図による。(施工38(g))</p> <p>機械室の手動式空気抜き配管の保温は分岐から2mの範囲とする。</p> <p>トラップ形式はフロートボール式(床置型) ※FRP製保温型 ●FRP製 ●SUS製</p> <p>材質及び厚さ ●SS400(※3.2mm ●4.5mm) ●SUS(※1.5mm ●2.0mm)</p> <p>煤煙濃度計 ●取付ける ●取付けない ●取付座を付ける</p> <p>煤じん量測定口(80φ×2) ※取付ける ●取付けない</p> <p>油面計はゲージ式(側圧計)とする。</p> <p>据付け方法 ●標準図(施工32)(二重設タンク・タンク室無し) ●標準図(施工33)(タンク室有り)</p> <p>タンクの保護被覆 ※強化プラスチック ●エポキシ樹脂 ●アスファルト</p> <p>基礎杭 ※不要 ●要(※別途工事 ●本工事)</p> <p>土留め工事 ●要 ●不要</p> <p>タンクローリー用アース端子を設ける。</p> <p>油面制御装置の機能 ●給油ポンプの起動停止 ●満油警報 ●減油警報 ●</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>機器表特記による。</li> <li>空気調和機のフィルターは、ロールの場合は1本、ユニットの場合は1セットを付属品として納入する。</li> </ul> <p>インバーター機の表示された能力は、型番で選定する。</p> <p>標準仕様書によるほか、中央機械室の冷却水管、冷温水管等の吊り及び支持は防振吊り金物又は防振支持金物で行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>亜鉛鉄板製 ●鋼板製(厚1.6mm)</li> <li>形状 ●バネ形 ●スリット形 ●ダンパー形</li> <li>取付け ●天井取付 ●壁取付</li> <li>電気式(遠隔操作) ※不要 ●要</li> </ul> <p>建築設備定期検査業務基準書2016年版(一財)日本建築設備・昇降機センター)の検査方法に準ずる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有り(構成機能は、図示による) ●無し</li> <li>要(●本工事 ●別途工事) ●不要</li> <li>取付高さ ※1300mm ●mm</li> <li>屋外、屋内露出の配線は、図面に表記のない限り金属管配線とする。</li> <li>天井隠べいの配線は、図面に表記のない限りケーブル配線とする。</li> </ul>	外気条件		室内(調整目標値)				一般		( )		温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	夏季	℃	%	℃	%	冬季	℃	%	℃	%	%	<p>6 衛生器具設備</p> <p>1 衛生器具の参考型番</p> <p>2 小便器用節水装置</p> <p>3 自動水栓</p> <p>4 大便器洗浄弁</p> <p>5 温水洗浄便座</p> <p>6 器具と排水管接続</p> <p>7 給水設備</p> <p>8 排水設備</p> <p>9 給湯設備</p> <p>10 消火設備</p> <p>11 ガス設備</p> <p>12 浄化槽設備</p>	<p>型番変更により参考型番が変更又は廃止されている場合、参考型番の同等品とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>小便器一体型 ●小便器分離型</li> <li>洗浄水量4リットル/回以下</li> <li>個別感知方式(●AC電源 ●自己発電 ●乾電池) ●手動式</li> <li>電源供給方式 ●AC電源 ●自己発電 ●乾電池</li> <li>操作方式 ●電気開閉式(●センサー式 ●タッチスイッチ式) ●手動式</li> </ul> <p>洗浄水加温方式 ●瞬間式 ●貯湯式</p> <p>※標準図(施工64) ●標準図(施工65)</p> <p>1 量水器</p> <p>2 配管材料</p> <p>3 弁類</p> <p>4 水槽のマンホール</p> <p>1 配管材料</p> <p>2 弁類</p> <p>1 配管材料</p> <p>2 弁類</p> <p>3 保溫</p> <p>4 屋内消火栓</p> <p>5 ガス系消火剤の種類</p> <p>6 ガス系消火の起動方式</p> <p>1 都市ガス設備</p> <p>2 配管材料</p> <p>3 ガスメータ</p> <p>4 パルク貯槽</p> <p>5 容器廻りの配管</p> <p>6 容器転倒防止</p> <p>7 ガス漏れ警報器</p> <p>1 処理種別及び方式</p> <p>2 型式</p> <p>3 処理能力</p> <p>4 放流水の水質</p> <p>5 排水方式</p> <p>6 埋戻し土</p> <p>7 土留め工事</p> <p>8 マンホールふた</p> <p>9 消毒薬</p>
	建材の内容・箇所	仕様等	処理を行う範囲																																																																																															
	アスファルト防水		M-5 参照																																																																																															
	設計用標準水平震度		● 特定の施設		● 一般の施設																																																																																													
	設置場所	機器種別	● 重要機器	● 一般機器	● 重要機器	● 一般機器																																																																																												
	上層階 屋上、塔屋	機器	2.0	1.5	1.5	1.0																																																																																												
		防振設置機器	2.0	2.0	2.0	1.5																																																																																												
		水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0																																																																																												
	中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6																																																																																												
		防振設置機器	1.5	1.5	1.5	1.0																																																																																												
水槽類		1.5	1.0	1.0	0.6																																																																																													
地階・1階	機器	1.0	0.6	0.6	0.4																																																																																													
	防振設置機器	1.0	1.0	1.0	0.6																																																																																													
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6																																																																																													
外気条件		室内(調整目標値)																																																																																																
		一般		( )																																																																																														
温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)	温度 (DB)	湿度 (RH)																																																																																													
		夏季	℃	%	℃	%																																																																																												
冬季	℃	%	℃	%	%																																																																																													



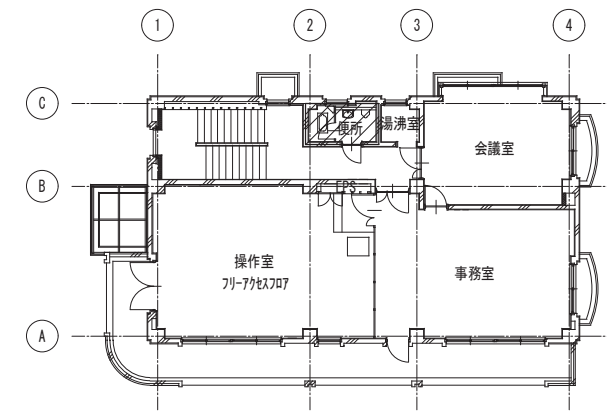




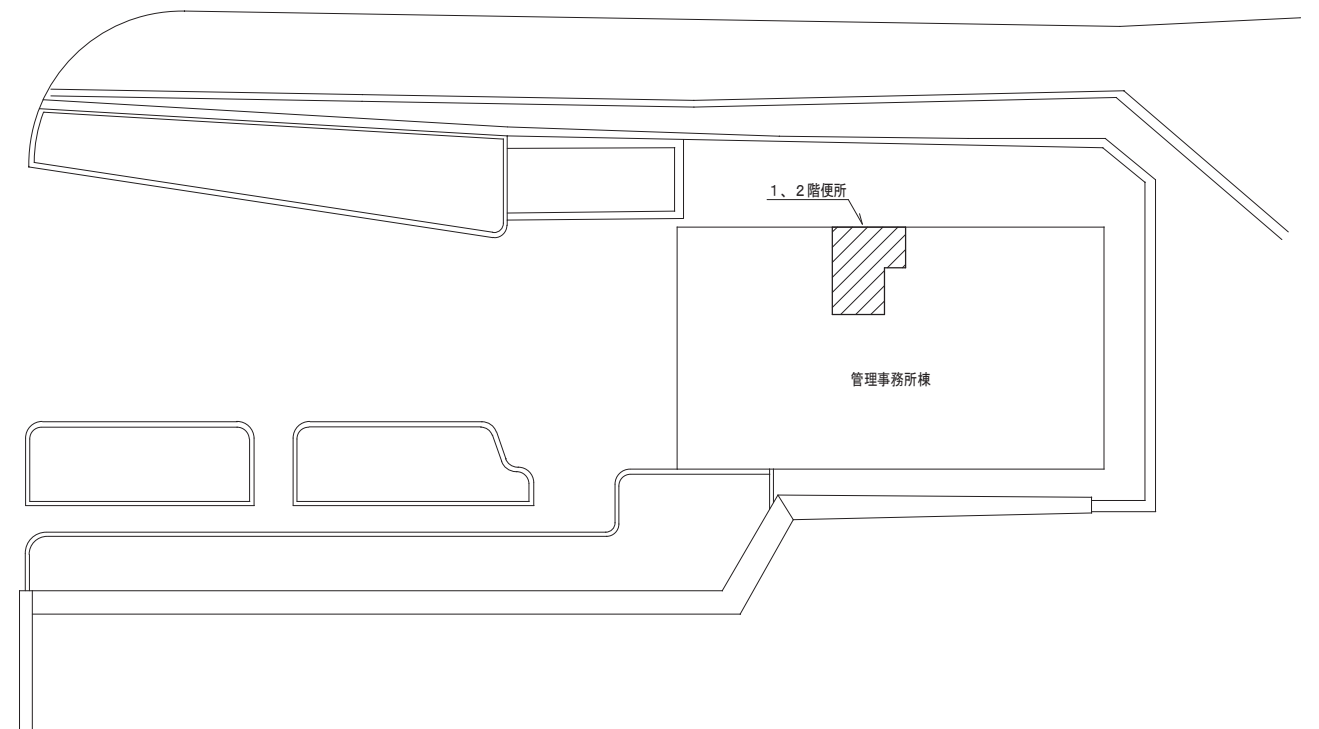
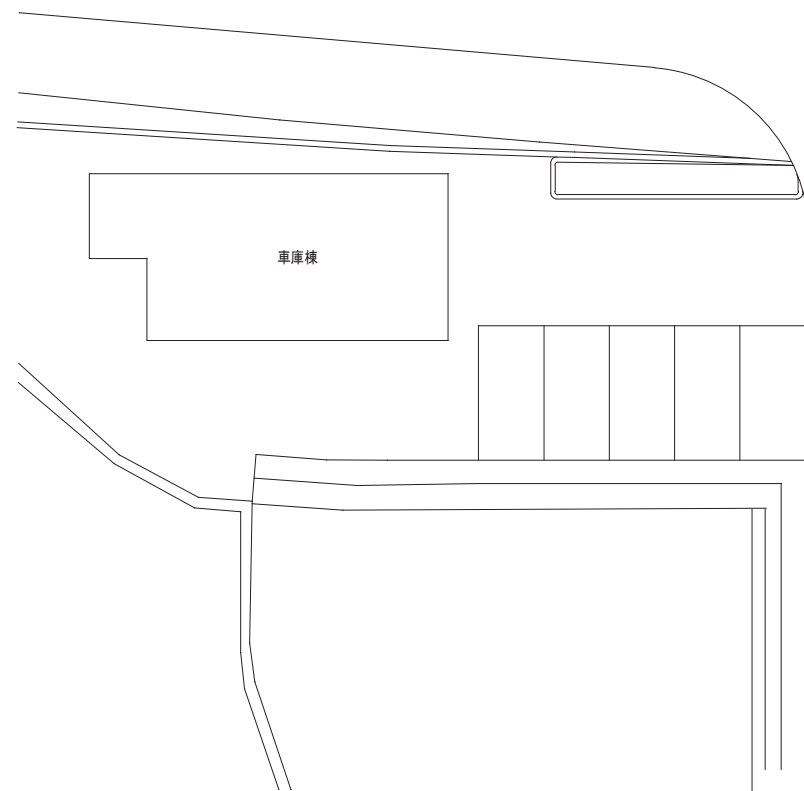
附近見取図



1階平面図 (キープラン) S=1:200



2階平面図 (キープラン) S=1:200



配置図 No Scale ※ は、今回工事対象範囲を示す。

**工事概要**

- ・ 1、2階便所計2ヶ所の和風大便器を洋風大便器に改修する。
- ・ 上記に伴い、トイレブース扉の外開き改修、電気設備改修を行う。





衛生器具表 (改修後)

名称	参考品番	仕様・付属品(参考品番:LIXIL)	設置室名	数量
洋風大便器	BC-P110HA (LIXIL)	DQ-PA150CH(クイックワシ式)、CW-KA31(温水洗浄便座、貯湯式、便ふたあり、手動洗浄)、	1階便所×1	1
(リモデルタイプ)	OFS498BMK (TOTO)	CF-Q20-SET(シャワートイレ分岐栓)、CF-63HST(棚付二連紙巻器)		
		※掃除口無し、リド加-あり、床給水、床排水		

特記事項 (改修後共通)

- ※図中 ..... は、既設部を示す。
- ※図中 ---||--- は、既設管への接続部を示す。
- ※図中 [斜線] は、床スラブ及び仕上げの復旧範囲を示す。  
復旧時、既設コンクリート4面に差筋アンカー(D13@200)施工の上、配筋(D13@200)を行うこと。
- ※図中 [格子] は、床のはつり補修部を示す。(仕上げ補修共)
- ※施工に先立ち、既設各配管等の口径・ルート、システム、運用方法を現地確認した上で施工すること。
- ※図中の各品番・寸法は全て参考とし、メーカーを指定するものではない。
- ※既存テラゾーブロックブース、木製扉及び吊り金物等は全て再使用とし、図示箇所のブース扉の開き勝手を外開きに改修する。
- ※ブース扉の外開き変更に伴い、現場にてドアノブ・「洋式トイレ」表示プレート等必要部品の新設、ブースの既設ボルト穴及び扉のビス穴埋め、ブースの穴開け・切り欠き等を行う想定としているが、監督員と改修方法を打合せし、施工に当たっては注意して施工を行うこと。
- ※既設床等の貫通は、鉄筋位置を調査の上行うこと。既設梁の貫通は不可とする。  
(スラブ・耐震壁等で鉄筋切断となる場合は、監督員と打合せのこと。)
- ※施工箇所以外の他系統給排水設備が長期間利用できない状況とならない様、必要箇所に仮設プラグ等を設置の上、工事を行うこと。
- ※既設建物を使用しながらの工事であるため、騒音・粉塵に十分配慮し、必要に応じて仮設を行い、既設設備を事前確認して施工すること。  
また、給水の断水、排水等の遮断ができる期間を施設側と協議し、工事時期を調整して施工すること。  
(1階・2階どちらかの便所を利用できる様に施工すること。)

衛生器具表 (撤去)

名称	参考品番(TOTO)	仕様・付属品	設置室名	数量
和風大便器	C750VF	S570B、TS570ZK2、TS670FL、TS571B、T82C22、TS116M	1階便所×1	1

既設管 凡例 (※図中特記を優先する。)

記号	名称	備考
---	給水管	SGP-VB
---	汚水・雑排水	VP
---	通気管	VP

※管種等は現場にて再調査の事。

既設保温材質 ※保温材質は、現場にて再調査の事。

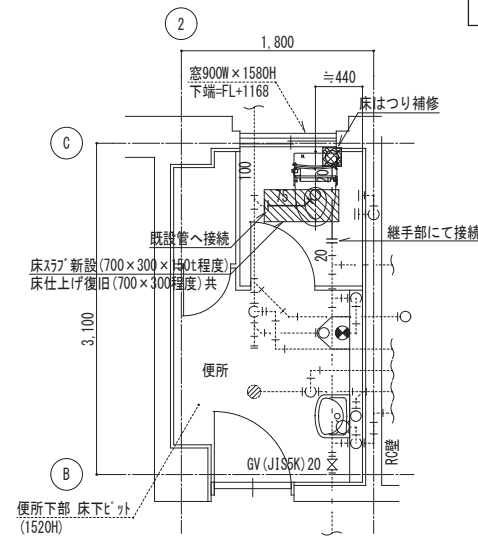
- 給水管 ビット内 ポリスチレンフォーム 防水麻布+アスファルトプライマー
- 給水管 天井内 グラスウール アルミガラスクロス化粧筒
- 排水管 " グラスウール アルミガラスクロス化粧筒

特記事項

- ※表中 [斜線] は、撤去器具を示す。
- ※既設器具は現場にて再確認し、器具表と異なる場合は、監督員へ報告する事。

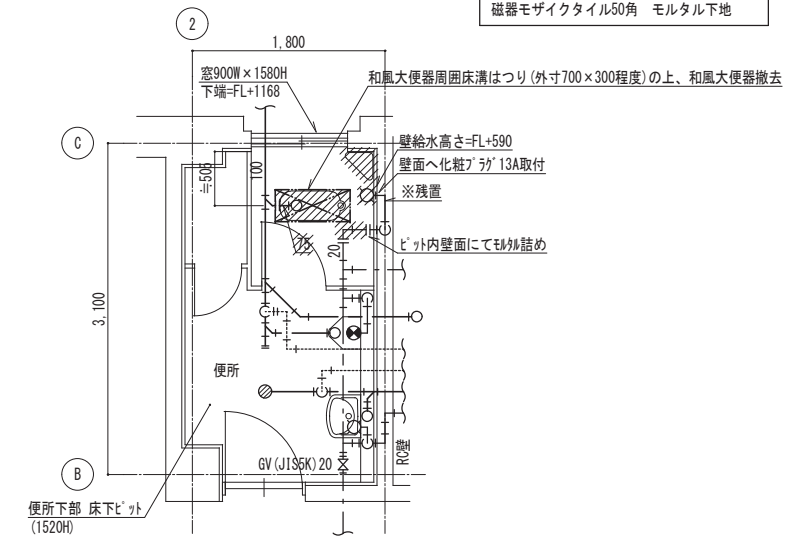
特記事項 (撤去共通)

- ※図中 [斜線] は、撤去部を示す。  
但し、壁内・RC内等の撤去不可能な配管は、そのままとする。
- ※図中 [X] は、床はつり後大便器撤去部を示す。
- ※施工に先立ち、既設各配管等の口径・ルート、システム、運用方法を現地確認した上で施工すること。  
※既設器具及び配管支持材等撤去部のボルト・ビス穴埋め補修は、本工事とする。
- ※トイレ内の養生を行い、粉塵の飛散防止に努めること。
- ※撤去器具・配管等は、法令を遵守し適切に撤出・処分を行うこと。
- ※施工箇所以外の他系統給排水設備が長期間利用できない状況とならない様、必要箇所に仮設プラグ等を設置の上、工事を行うこと。
- ※既設建物を使用しながらの工事であるため、騒音・粉塵に十分配慮し、必要に応じて仮設を行い、既設設備を事前確認して施工すること。  
また、給水の断水、排水等の遮断ができる期間を施設側と協議し、工事時期を調整して施工すること。  
(1階・2階どちらかの便所を利用できる様に施工すること。)



1階平面詳細図 S=1:50 (改修後)

改修後床仕様  
磁器モザイクタイル50角 モルタル下地



1階平面詳細図 S=1:50 (撤去)


既設床仕様  
磁器モザイクタイル50角 モルタル下地



衛生器具表 (改修後)

名称	参考品番	仕様・付属品(参考品番:LIXIL)	設置室名	数量
洋風大便器	BC-P110HA (LIXIL)	DQ-PA150CH(クイックウォッシュ)、CW-KA31(温水洗浄便座 貯湯式 便ふたあり 手動洗浄)、	2階便所×1	1
(リモデルタイプ)	OFS498BMK (TOTO)	A-10476(リトル用置換キット)、322-1165-630(延長フルート20A)、CF-020-SET(シャワートイレ分岐栓)、		
		CF-63HST(棚付二連紙巻器) ※掃除口無し、サイドカバーあり、壁給水、床排水		
		※器具・付属品の必要部材は、各メーカーの仕様による。		

特記事項

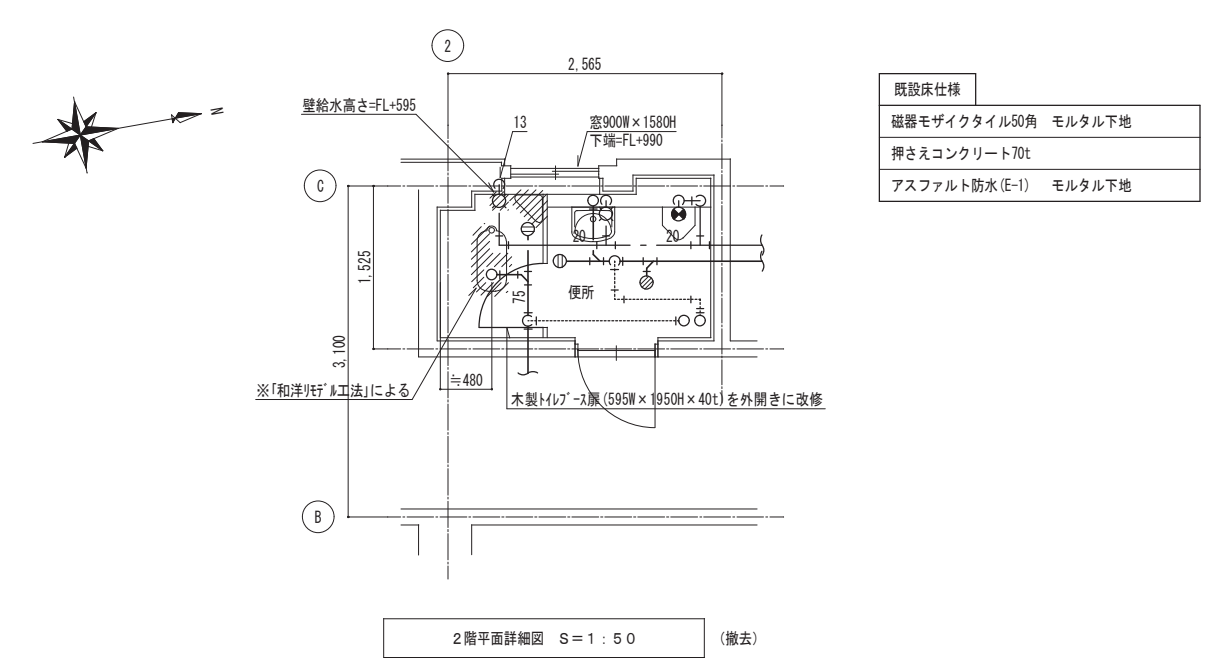
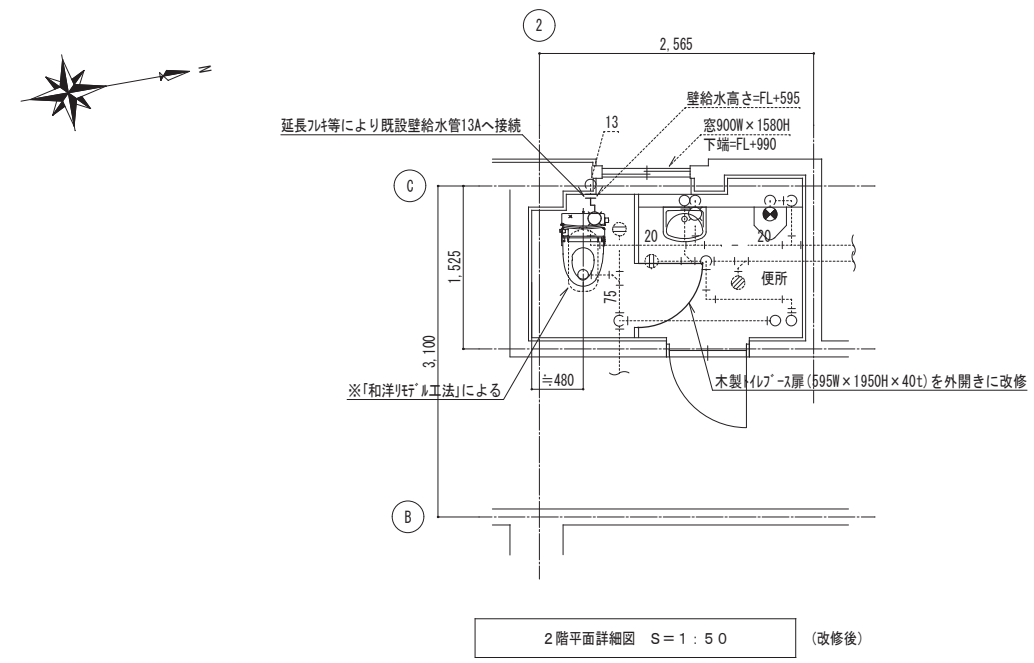
※表中  は、撤去器具を示す。  
 ※既設器具は現場にて再確認し、器具表と異なる場合は、監督員へ報告する事。

衛生器具表 (撤去)

名称	参考品番(TOTO)	仕様・付属品	設置室名	数量
和風大便器	C750VF		2階便所×1	1

アスベストについて

※今回工事の対象となる場所のアスファルト防水には、アスベストが含有されている物として撤去・処分を見込んでおり、検体調査費は見込んでいない。  
 ※和風大便器上部前立て・リム等撤去時にアスファルト防水が和風大便器に付着する場合は、アスベストが含有されている物として、法令を遵守し適切に施工・処分を行うこと。  
 ※その他の材料で、アスベスト含有の可能性がある物を改修する場合は、監督員に報告すること。



既設床仕様

磁器モザイクタイル50角	モルタル下地
押さえコンクリート70t	
アスファルト防水(E-1)	モルタル下地

和洋リモデル工法 概要表 ※2階和風大便器改修部に適用

●和風大便器から洋風大便器への改修部には、排水管改修を床の上のみで行う事ができる和洋リモデル工法を採用し、詳細な改修工法は、各メーカーの仕様によるものとする。  
 ※採用可否については、各メーカー工法の条件を確認すること。  
 ※改修により防水層が切れるため、原則として改修後の床は水洗いは不可とする。

[主要工程(参考)]

1. 既設ロータンク及び付属部品等を撤去する。
2. 既設和風大便器の前立て部をカットする。
3. 所定の位置に排水管を立上げる。
4. 溶接金網を敷設した後、モルタルを打設する。
5. 床仕上げ(磁器モザイクタイル50角)の復旧を行う。
6. 新設洋風大便器を設置する。



電気設備工事特記仕様書

I. 工事概要

1 工事場所 南部町下中谷

2 建物概要

Table with columns: 番号, 建物名称, 構造, 階数, 建築基準法による延べ面積(m²), 消防法施行令別表第一の区分, 備考

3 工事種目 (印の付いたものが対象工事種目)

Table with columns: 工事種目, 番号, 1, 2, 3, 4, 5, 屋外, 備考

4 設備概要 (本工事における工事種目ごとの概要を示すもので、仕様を規定するものではない。)

印の付いたものを適用する。

Table with columns: 項目, 特記事項

Table with columns: 項目, 特記事項

II. 特記仕様

1 一般事項

- (1) 現場説明書、質問回答書、特記仕様書及び図面に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官庁官庁管轄部監修の標準仕様書のうち印の付いたものによる。

2 特記事項

- (1) 項目は番号に印の付いたものを適用する。
- (2) 特記事項のうち選択する事項は印の付いたものを適用する。

Table with columns: 項目, 特記事項

Table with columns: ⑥機材等, ⑦機材の品質・性能証明, ⑧施工図等, ⑨完成写真等, 10完成図等, 11他工事との取合い

12 工事用電力・水・その他

13 表示板

14 足場

本工事に使用する設備機材等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等以上の品質及び性能を有するものとする。

使用する機材がⅢ 機材による場合は、標準仕様書第1編第1章第4節1. 4. 2(2)の品質及び性能を有することの証明となる資料を省略することができる。

Table with columns: 区分, 分類・規格, 撮影箇所, 部数, 電子データの提出

次の図書を工事の完成引渡し時に監督職員に提出する。

Table with columns: 区分, 名称, 部数

他工事との取合い

Table with columns: 他工事との取合い, 電気設備, 機械設備, 建築

本工事に必要な工事用電力、水及び諸手続きなどの費用はすべて受注者の負担とする。

設ける。(寸法等は下図による。建築工事、機械設備工事等と一緒に表示する)

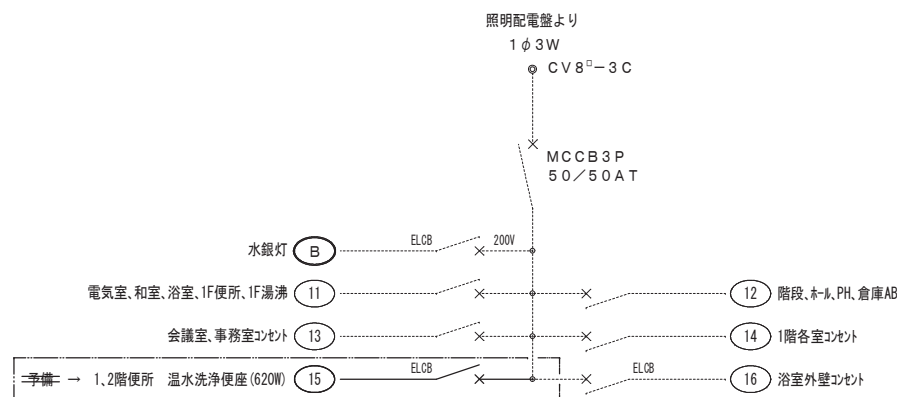
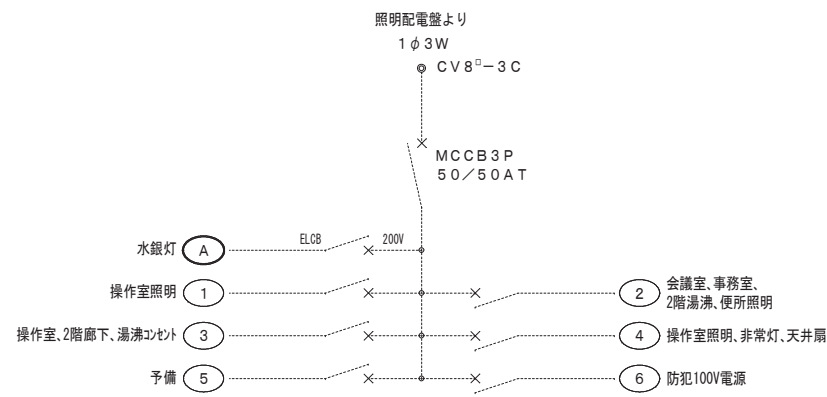


- 記入要領
1. 書体は角ゴシックとする。
2. お願い表示板は平易な表現及び内容とし、監督員が指示するものとする。

「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据え置き方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

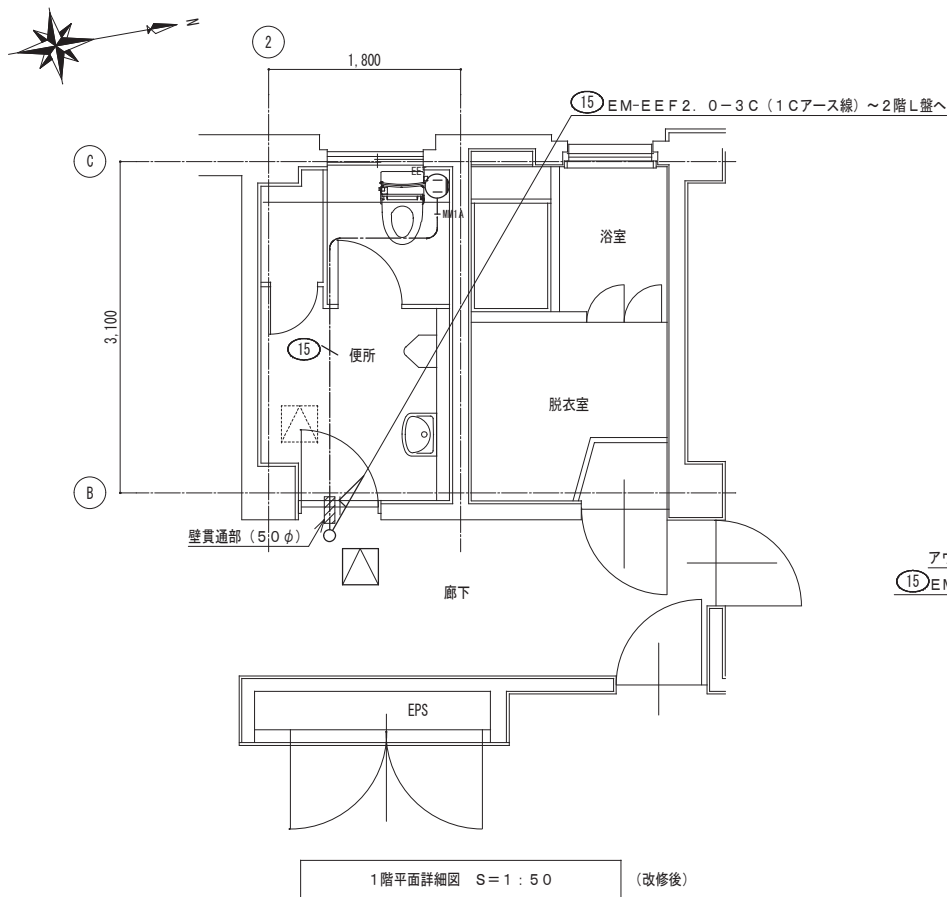






・既設予備ブレーカーMCCB2P50/20A撤去の上、ELCB2P50/20A新設  
 ・回路名称「予備」を「1、2階便所 温水洗浄便座」に変更

既設分電盤L結線図 埋込型 2階



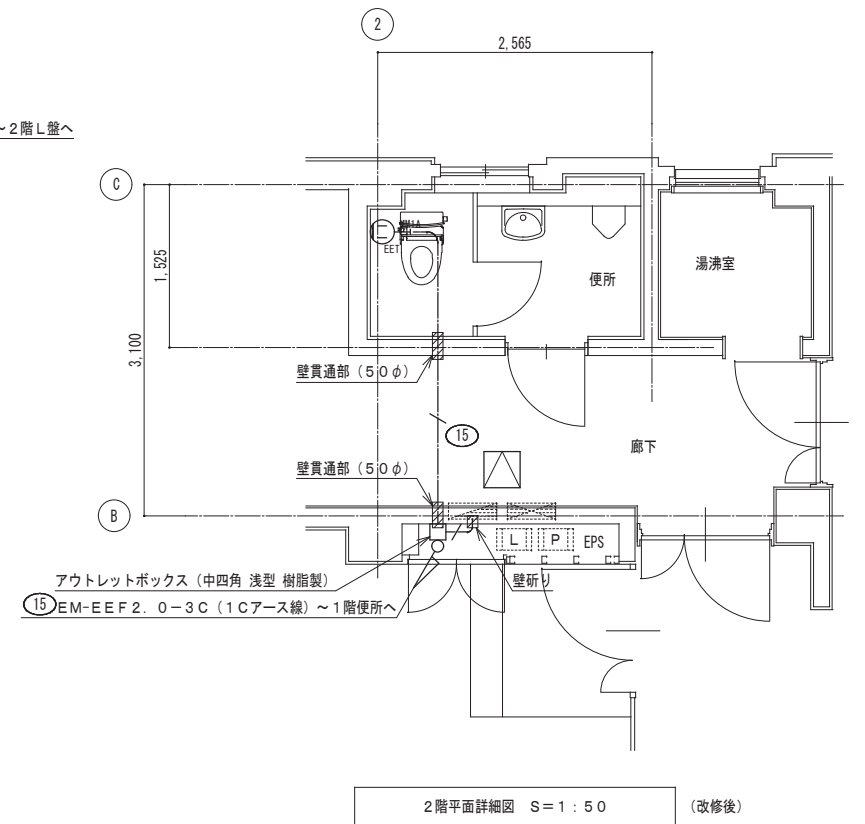
1階平面詳細図 S=1:50 (改修後)

凡例

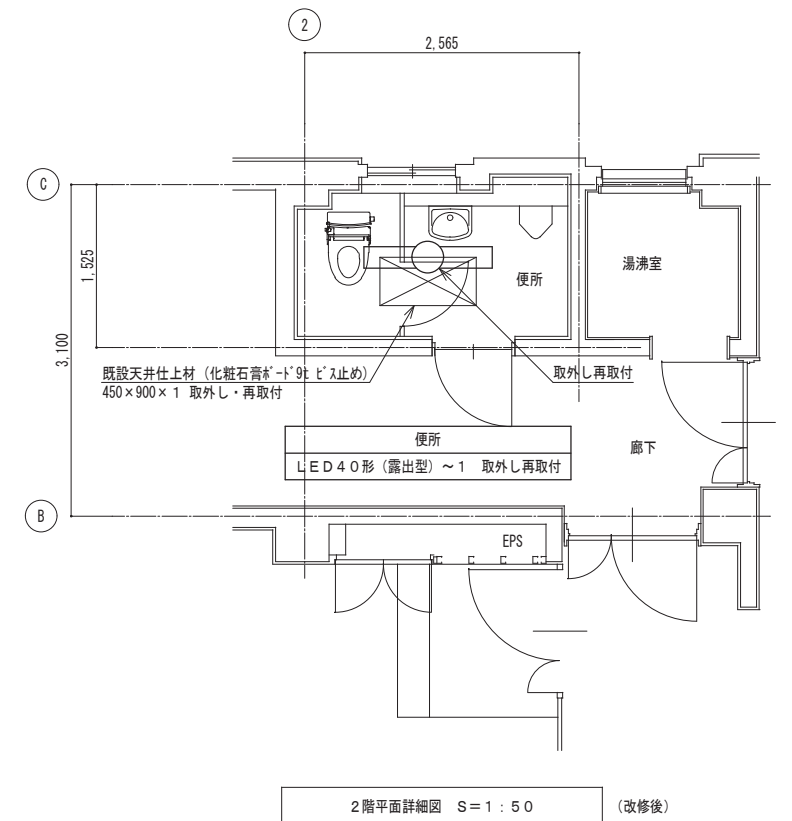
記号	名称	仕様
⊙ <sub>EET</sub>	埋込コンセント	2P15A(E)×1. ET 金属プレート
□	天井点検口	450×450
□	既設天井点検口	450×450

特記

1. 図中記入なき配管・配線は、下記による。  
 EM-EEF2. 0-3C (1Cアース線) 天井内
2. 図中大線部分の配管・配線・器具類等は、本工事部分を表す。
3. 図中細線点線部分は既設を表し、既存のままとする。
4. 図中  $\overline{\text{MIA}}$  印は、立上・立下部をメタルモールA型にて保護すること。
5. 既設壁等の貫通は、鉄筋位置を調査の上行うこと。
6. 既設改修工事のため、既設設備を事前確認の上施工を行うこと。
7. 既存施設を使用しながらの工事であるため、騒音・粉塵等に十分配慮し、施設運営に支障がある施工を行う際は、日程を施設担当者で調整の上行うこと。
8. 天井点検口の既設に際し、天井材のアスベスト含有は無いものと見なしているが、型番等により確認すること。  
 不明な場合は対応について監督員と協議すること。



2階平面詳細図 S=1:50 (改修後)



2階平面詳細図 S=1:50 (改修後)

